

学校法人 兵庫医科大学

2022年度 事業報告書



EMPOWER THE PEOPLE

心に響く医を、私たちがいるかぎり



～建学の精神～

社会の福祉への奉仕

人間への深い愛

人間への幅の広い科学的理解

目 次

I. 法人の概要

1. 沿	革	-----	1		
2. 設置する学校・学部・学科等		-----	2		
3. キャンパスの所在地		-----	3		
4. 役員・評議員・教職員		-----	4		
5. 組	織	-----	7		
6. 関	連	法	人	-----	9

II. 事業の概要

1. 2022年度 事業計画(重点施策)と達成状況	-----	10	
2. 法	人	-----	17
3. 西宮キャンパス	大学	-----	27
4. 西宮キャンパス	病院	-----	33
5. 篠山キャンパス		-----	35
6. 神戸キャンパス		-----	37

III. 財務の概要

1. 2022年度の決算概要	-----	43				
2. 事業活動収支計算書	-----	45				
3. 資金収支計算書	-----	47				
4. 貸借対照表	-----	48				
5. 主要な財務比率の推移	-----	49				
6. キャッシュ・フローの推移	-----	51				
7. 財	産	目	録	-----	52	
8. 監	査	報	告	書	-----	53

I 法人の概要

1. 沿革

1971年	11月	学校法人兵庫医科大学寄附行為認可及び兵庫医科大学設置認可
1972年	4月	兵庫医科大学開学(入学定員 医学部 100名)
	4月	兵庫医科大学病院開設
1973年	8月	病院棟(1号館)完成
1974年	4月	中央動物実験棟(7号館)完成
	8月	校舎、講堂(3号館)完成
1978年	3月	兵庫医科大学大学院医学研究科設置認可
1980年	2月	病院・研究棟(8号館)完成
	8月	兵庫医科大学 ドイツ連邦共和国ザールランド大学との学術交流に関する協定を締結
1981年	11月	鳴尾浜総合グラウンド完成
1984年	4月	研究棟(9号館)完成
1994年	3月	兵庫医科大学病院 特定機能病院に指定
1995年	1月	阪神・淡路大震災 被災
1996年	10月	兵庫医科大学病院 災害拠点病院に指定
	11月	兵庫医科大学病院 エイズ拠点病院に指定
1997年	4月	兵庫医科大学先端医学研究所開設
	10月	兵庫医科大学篠山病院開設
	11月	立体駐車場完成
1999年	6月	兵庫医科大学リハビリテーションセンター開設
	9月	兵庫医科大学ささやま老人保健施設開設
	11月	兵庫医科大学 中華人民共和国汕頭大学医学院との学術交流に関する協定を締結
2000年	3月	病院棟(10号館)完成(開学25周年記念事業)
2001年	4月	兵庫医科大学附属看護専門学校開校
2004年	3月	兵庫医科大学 大学基準協会の相互評価により、大学基準適合の認定
2005年	3月	平成記念会館完成(開学30周年記念事業)
	12月	兵庫医科大学病院 日本医療機能評価機構より病院機能評価(Ver.4)の認定
2006年	3月	兵庫医科大学 中華人民共和国天津医科大学との学術交流に関する協定を締結
	11月	学校法人兵庫医科大学寄附行為変更認可及び兵庫医療大学設置認可
	11月	兵庫医科大学病院 PETセンター開設
2007年	4月	兵庫医療大学開学 (入学定員 薬学部 150名、看護学部 100名、リハビリテーション学部 80名)
	7月	兵庫医科大学 関西学院大学との学術交流に関する包括協定締結
	7月	兵庫医科大学病院 兵庫県エイズ治療中核拠点病院に指定
	10月	兵庫医科大学 クロアチア共和国 Rijeka 大学医学部との学術交流に関する協定を締結
2008年	2月	兵庫医科大学病院 地域がん診療連携拠点病院に指定
	4月	兵庫医科大学病院 肝疾患診療連携拠点病院に指定
	7月	学校法人兵庫医科大学 篠山市と兵庫医科大学篠山病院の運営と整備に関する基本協定を締結
2009年	3月	兵庫医科大学附属看護専門学校閉校
	3月	兵庫医療大学 体育館 完成
	4月	兵庫医科大学 緊急医師確保対策として2名、「骨太の方針2008」により8名増員となり、入学定員は110名となる
	4月	兵庫医科大学病院 兵庫県認知症疾患医療センターに指定
2010年	6月	兵庫医科大学ささやま医療センター開院(兵庫医科大学篠山病院を改称)
	12月	兵庫医療大学大学院看護学研究科及び医療科学研究科設置認可
	12月	兵庫医科大学病院 日本医療機能評価機構より病院機能評価(Ver.6)の認定
2011年	3月	兵庫医科大学 大学基準協会の認証評価により、大学基準適合の認定
2012年	11月	兵庫医療大学大学院薬学研究科設置認可
	11月	学校法人兵庫医科大学 中医薬孔子学院設立
	11月	兵庫医科大学 アメリカ合衆国カリフォルニア大学サンディエゴ校と学術交流に関する基本合意書を締結
	12月	兵庫医科大学病院 急性医療総合センター完成(開学40周年記念事業)
2013年	3月	兵庫医療大学 大学基準協会の認証評価により、大学基準適合の認定

2013年	5月	兵庫医科大学 ブルガリア共和国ソフィア医科大学との学術交流に関する協定を締結
	12月	兵庫医科大学ささやま医療センター 日本医療機能評価機構より病院機能評価(3rdG:Ver.1.0一般病院1)の認定
2014年	3月	兵庫医療大学 オーストラリア連邦アデレード大学と学術交流に関する基本合意書を締結
	4月	兵庫医科大学 研究医養成枠として2名増員し、入学定員は112名となる
2015年	4月	兵庫医科大学 健康医学クリニック開設
	4月	兵庫医療大学 社会学連携推進機構設置
	12月	兵庫医科大学病院 日本医療機能評価機構より病院機能評価(3rdG:Ver.1.1)の認定
2016年	1月	兵庫医科大学ささやま居宅サービスセンター開設
	3月	学校法人兵庫医科大学 篠山市との土地交換契約を締結
	12月	ドイツ連邦共和国ビュルツブルグ大学医学部と学術交流協定を締結
2017年	11月	教育研究棟 竣工
2018年	2月	兵庫医科大学病院 兵庫県アレルギー疾患医療拠点病院に指定
	3月	兵庫医科大学 大学基準協会の認証評価により大学基準適合の認定
	6月	学校法人兵庫医科大学 篠山市との病院運営継続の基本協定を締結
2019年	2月	兵庫医科大学ささやま医療センター 日本医療機能評価機構より病院機能評価(3rdG:Ver.2.0一般病院1)及びリハビリテーション病院(副機能)の認定
2019年	4月	兵庫医科大学病院 兵庫県難病診療連携拠点病院に指定
2019年	8月	兵庫医科大学ささやま居宅サービスセンター 厚生労働省より「機能強化型訪問看護ステーション(機能強化型訪問看護管理療養費3)」の認定
2019年	9月	兵庫医科大学病院 がんゲノム医療拠点病院に指定
2019年	11月	兵庫医科大学病院 小児がん連携病院に指定
2020年	4月	兵庫医科大学病院 地域がん診療連携拠点病院(高度型)に指定
2020年	12月	新立体駐車場・デッキ棟完成
	12月	兵庫医科大学病院 日本医療機能評価機構より病院機能評価(3rdG:Ver.2.0)の認定
2021年	8月	学校法人兵庫医科大学寄附行為変更認可及び兵庫医科大学に薬学部 医療薬学科、看護学部 看護学科、リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科及び大学院 薬学研究科、看護学研究科、医療科学研究科 設置認可
2022年	2月	兵庫医科大学 日本医学教育評価機構により医学教育分野別評価基準 Ver.2.32 の認定
	2月	学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院 閉院
2022年	4月	兵庫医療大学と兵庫医科大学が統合 4学部4研究科を擁する兵庫医科大学が誕生
2022年	10月	大阪・梅田に兵庫医科大学 梅田健康医学クリニックを開設

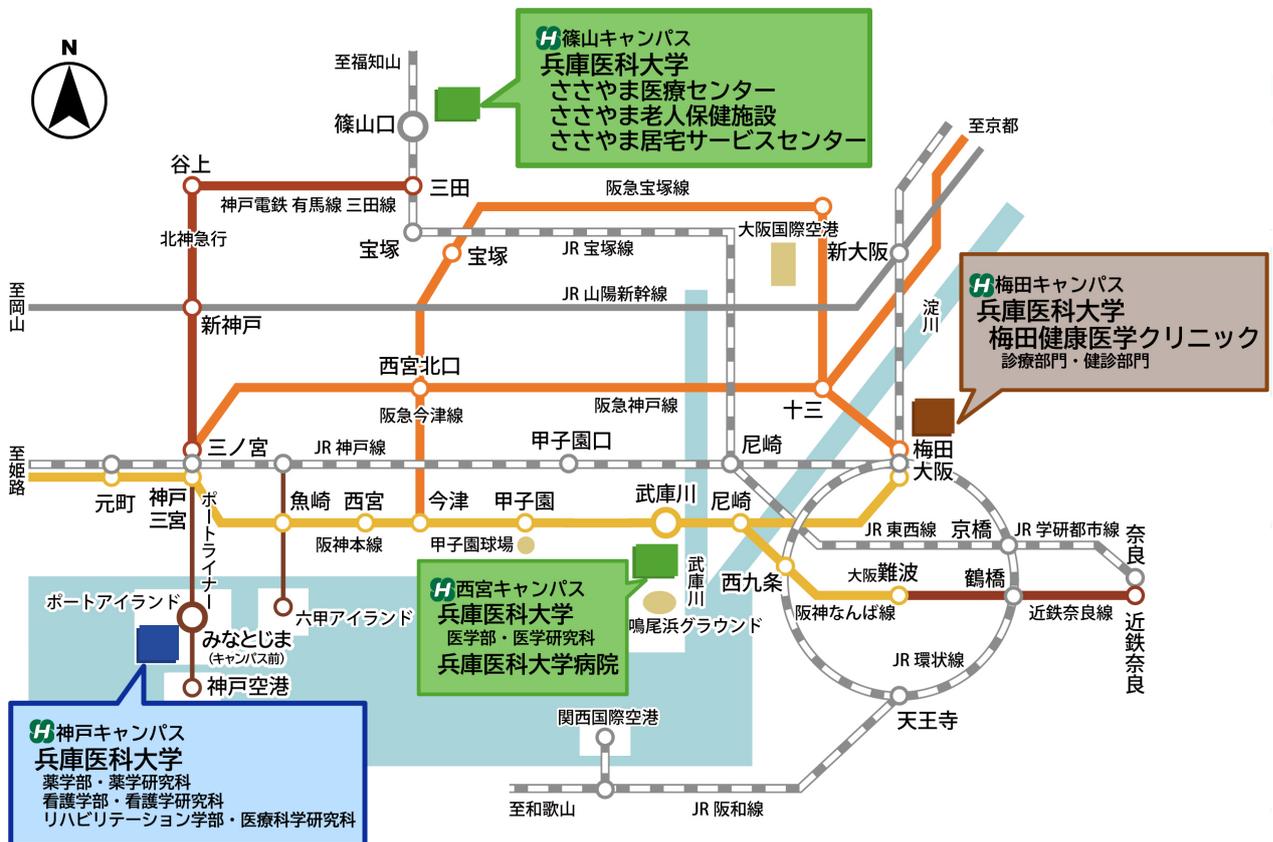
2. 設置する学校・学部・学科等(2022年4月1日現在)

学校名	学部・学科等名	入学定員	2022年度 入学者数	収容定員	現員
兵庫医科大学 (学長:野口光一) 1972年4月開学	大学院 医学研究科	60	37	240	212
	大学院 薬学研究科	3	4	12	10
	大学院 看護学研究科	8	9	16	22
	大学院 医療科学研究科	8	8	16	17
	医学部 医学科	112	112	672	705
	薬学部 医療薬学科	150	138	900	849
	看護学部 看護学科	100	109	400	437
	リハビリテーション学部 理学療法学科	40	53	160	190
	リハビリテーション学部 作業療法学科	40	46	160	171

3. キャンパスの所在地

学校法人兵庫医科大学

- | | |
|---------|--|
| 西宮キャンパス | 兵庫県西宮市武庫川町 1 番 1 号 (〒663-8501)
兵庫医科大学医学部 医学科
大学院 医学研究科
兵庫医科大学病院 |
| 篠山キャンパス | 兵庫県丹波篠山市黒岡 5 番地 (〒669-2321)
兵庫医科大学 ささやま医療センター
兵庫県丹波篠山市黒岡 36 番地 (〒669-2321)
兵庫医科大学 ささやま老人保健施設
兵庫医科大学 ささやま居宅サービスセンター |
| 神戸キャンパス | 兵庫県神戸市中央区港島 1 丁目 3 番地 6 (〒650-8530)
兵庫医科大学 薬学部 医療薬学科
看護学部 看護学科
リハビリテーション学部 理学療法学科
リハビリテーション学部 作業療法学科
大学院 薬学研究科
大学院 看護学研究科
大学院 医療科学研究科 |
| 梅田キャンパス | 大阪府大阪市北区梅田 1 丁目 13 番 1 号
大阪梅田ツインタワーズ・サウス 13 階 (〒530-0001)
兵庫医科大学 梅田健康医学クリニック |



4. 役員・評議員・教職員

○ 役員（2023年3月31日現在）

理事【定員 17～19名・現員 18名】

現職	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日	担当業務
理事長	太城力良	常勤	2005.6.1	総括
常務理事	松村昭夫	〃	2019.4.1	経営企画・予算 財務・物流・人事・施設管理 危機管理(総括、西宮キャンパス) コンプライアンス
兵庫医科大学 学長	野口光一	〃	2009.4.1	大学運営
兵庫医科大学教授・副学長	藤岡宏幸	〃	2019.4.1	神戸キャンパス運営
兵庫医科大学病院長・ 兵庫医科大学副学長	阪上雅史	〃	2016.4.1	大学病院の運営 梅田健康医学クリニック 募金・基金 広報(統括・病院)
兵庫医科大学教授・副学長	鈴木敬一郎	〃	2013.4.1	教育全般(薬学部強化)
兵庫医科大学教授・ 兵庫医科大学病院副院長	池内浩基	〃	2022.4.1	キャンパス間連携
ささやま医療センター病院長	片山 覚	〃	2019.4.1	篠山キャンパスの運営
ささやま医療センター看護部長・ 副院長	山田明美	〃	2015.4.1	看護事業管理 危機管理(篠山キャンパス)
兵庫医科大学教授・副学長	田中稔之	〃	2022.4.1	社会貢献 危機管理(神戸) 広報(大学)
理事	西岡清	非常勤	2016.4.1	病院事業管理
宝塚市立病院 総長	西 信一	〃	2019.4.1	
神戸市立医療センター中央市民 病院 放射線診断科 参事	石藏礼一	〃	2022.4.1	
兵庫県医師会 会長・ 八田クリニック 院長	八田昌樹	〃	2022.8.1	
協和会グループ 会長	木曾賢造	〃	2014.4.1	
兵庫県保健医療部長	山下輝夫	〃	2022.6.1	
上ヶ原病院 理事長	大江与喜子	〃	2022.4.1	
弁護士	木内道祥	〃	2020.9.1	

監事【定員 2～3名・現員 3名】

現職	氏名	常勤・非常勤の別	就任年月日
監事	森田泰夫	非常勤	2019.4.1
社会福祉法人恩賜財団済生会支 部 神奈川県済生会 顧問	正木義博	〃	2018.12.1
公認会計士	後藤研了	〃	2021.4.1

1. 責任限定契約の締結について

本法人は、私立学校法及び本法人寄附行為 第49条の規定に基づき、非業務執行理事等との間で責任限定契約を締結している。

2. 役員賠償責任保険の締結について

本法人は、被保険者の範囲を理事・監事とする役員賠償責任保険契約を締結している。学校法人や第三者訴訟等により、被保険者が負担することとなる訴訟費用及び損害賠償金等を填補の対象としている。

○ 評議員（2023年3月31日現在）

評議員【定員 40～44名・現員 42名】

氏名	主な現職
太城力良	理事長
松村昭夫	常務理事
野口光一	兵庫医科大学 学長
藤岡宏幸	兵庫医科大学 副学長
阪上雅史	兵庫医科大学病院長・兵庫医科大学 副学長
鈴木敬一郎	兵庫医科大学教授・副学長
小山英則	兵庫医科大学教授・副学長
辻村亨	兵庫医科大学教授・副学長・医学部長
山田明美	ささやま医療センター看護部長・副院長
片山覚	ささやま医療センター病院長
長谷川誠紀	兵庫医科大学教授・学生部長
飯島尋子	兵庫医科大学教授
石戸聡	兵庫医科大学教授・教務部長
池内浩基	兵庫医科大学教授・副学長・兵庫医科大学病院副院長
丸山美津子	兵庫医科大学病院看護部長・副院長
大柳光正	梅田健康医学クリニック院長
青木俊二	兵庫医科大学教授・薬学部長
田中稔之	兵庫医科大学教授・副学長
川口浩太郎	兵庫医科大学教授
土田敏恵	兵庫医科大学教授・看護学部長
佐々木周一	事務局長
甲斐義啓	事務局次長
西岡清	理事(非常勤)
西信一	宝塚市立病院 総長
大江与喜子	上ヶ原病院 理事長
福渡秀一郎	福渡医院院長・兵庫医科大学後援会会長
澤田友宏	ペガサス馬場記念病院 薬剤部・兵庫医療大学同窓会会長
石藏礼一	神戸市立医療センター中央市民病院 放射線診断科 参事・緑樹会(同窓会)会長
難波光義	宝塚市 病院事業管理者
成田康子	公益社団法人兵庫県看護協会 会長
笠井秀一	一般社団法人兵庫県薬剤師会 会長
間瀬教史	一般社団法人兵庫県理学療法士会 会長
山中若樹	医療法人明和病院 理事長
木曾賢造	協和会グループ 会長
八田昌樹	兵庫県医師会 会長・八田クリニック 院長
山下輝夫	兵庫県保健医療部長
田村比佐雄	西宮市副市長
中山裕介	神戸市健康局 副局長
堀井宏之	丹波篠山市副市長
夏苺千晶	東日本税理士法人 税理士
木内道祥	弁護士
伊賀俊行	西宮市医師会 会長・伊賀眼科クリニック 院長

○ 教職員数(2023年3月31日現在)

1. 教員数

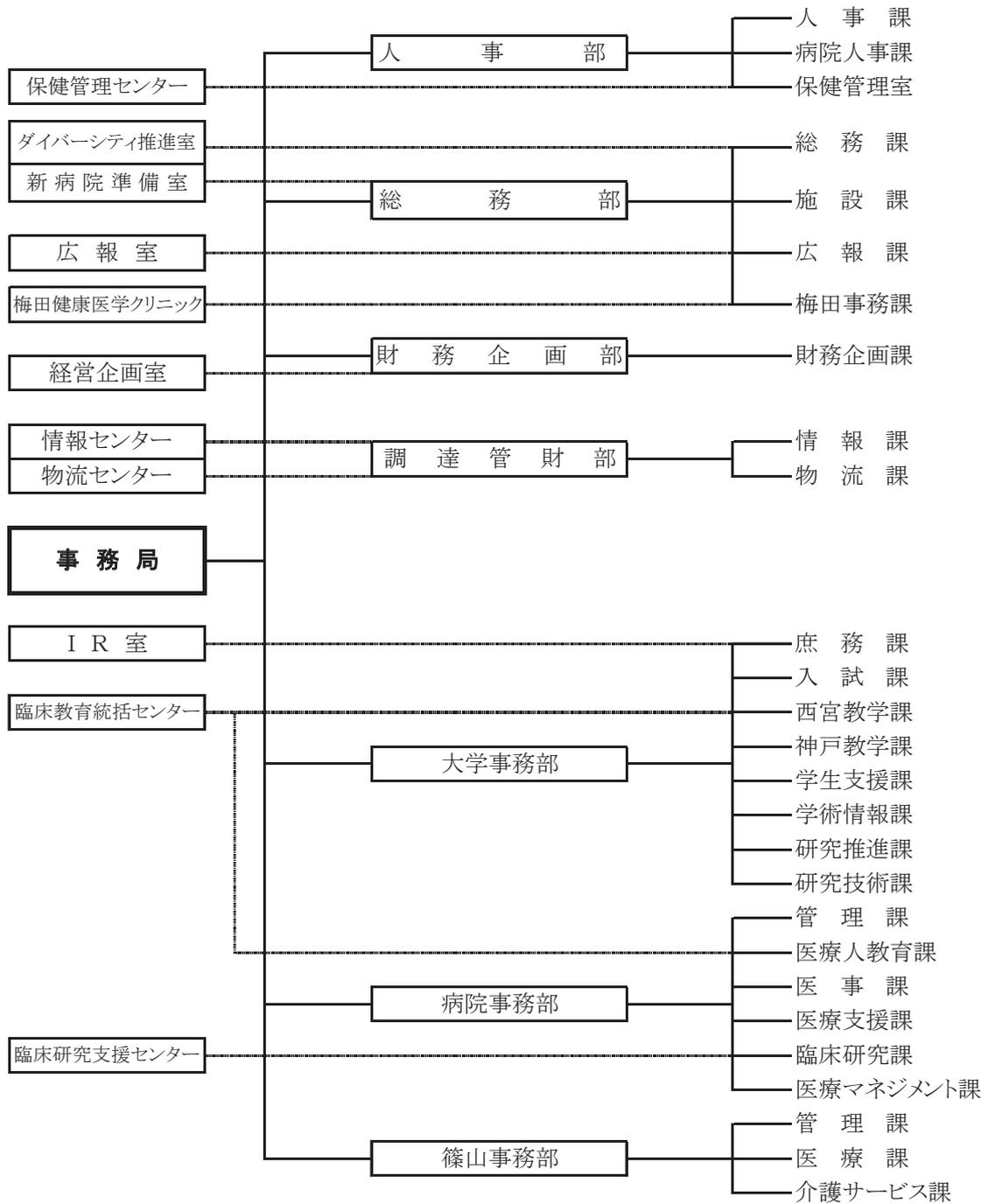
	西宮 キャンパス	篠山 キャンパス	神戸 キャンパス	梅田 キャンパス	合計
学長	1	-	-	-	1
副学長	3	-	2	-	5
教授	71	-	40	-	111
准教授	42	4	22	1	69
講師	89	3	30	-	122
助教	215	6	28	2	251
助手	-	-	4	-	4
合計	421	13	126	3	563

2. 職員数

		西宮 キャンパス	篠山 キャンパス	神戸 キャンパス	梅田 キャンパス	合計
医師	病院長	1	1	-	-	2
	梅田健康医学クリニック 院長	-	-	-	1	1
	病院助手	96	2	-	-	98
	レジデント	115	6	-	-	121
	臨床研修医	95	-	-	-	95
医療技術職員		1,444	208	3	18	1,673
その他技術職員		215	1	14	-	230
福祉職員		10	63	-	-	73
事務職員		452	54	51	15	572
技能・労務職員		194	31	1	-	226
合計		2,622	366	69	34	3,091

○ 事務局組織図

【2023年3月31日現在】



6. 関 連 法 人

○ 株式会社 エイチ・アイ

設 立 日	2004 年 12 月 1 日
資 本 金	1,000万円
所 在 地	西宮市武庫川町 1番1号
出 資 者	学校法人 兵庫医科大学
役 員 構 成	代表取締役 松村 昭夫 常務取締役 香川 静麿 取 締 役 阪上 雅史 取 締 役 佐々木 周一 取 締 役 甲斐 義啓 取 締 役 中村 高志 取 締 役 小寺 斉人 取 締 役 丸山 美津子 取 締 役 上田 幹夫 監 査 役 森田 泰夫
従 業 員	16名
事 業 内 容	飲食店・売店の運営管理、業務受託他

○ 有限会社 エイチ・アイ・サービス

設 立 日	2005 年 1 月 5 日
資 本 金	300万円
所 在 地	西宮市武庫川町 1番1号
出 資 者	株式会社 エイチ・アイ
役 員 構 成	取 締 役 香川 静麿
従 業 員	3名
事 業 内 容	損害保険代理店業、業務受託他

Ⅱ 事業の概要

1. 2022 年度事業計画＜重点施策＞と達成状況

計画 No.	事業名、事業の概要	達成状況
1	<p>【事業名】 梅田クリニック開設後の利用者増大及び定着に向けた取り組み</p> <p>【事業の概要】</p> <p>1. 開設時期をはじめとする当初計画の滞りない実行</p> <p>2. 移転前からの多職種による徹底した議論を通じた運営方針等の策定</p> <p>3. 競合となる健診施設及びクリニックの状況調査及び連携医療機関の開拓、強みを活かした一層の営業活動強化</p> <p>4. 施設利用者満足度向上に向けたアンケートの実施、また改善項目への迅速な対応</p>	<p>1. 一部計画外の事象は発生したものの、スケジュールどおりに開設することができ、人間ドックにおいては繁忙期からの開始となることで、これまで経験のない健診者数に対応する必要があったが、大きな問題を発生させることなく対応ができ、想定以上の成果をあげることができた。また、人間ドック受診者の平均値では目標である 20 件には及ばなかったが 1 日単位では 28 件を滞りなくこなすことができた。</p> <p>2. 夕礼を定例化する等の多職種間での情報共有の場を設定したが、議論の場を発展させることは出来ていないため、全スタッフが主体的に発言できるよう発展させていくことが課題である。開設後、施設内での意思決定を行う場として、毎週金曜日に幹部ミーティングを開催することで、新たに発生した課題や継続して取り組むべき問題に対して迅速かつ計画的に取り組むことができる体制とした。また、不定期ではあるものの運用の効率化を目的とした現場スタッフミーティングも複数回開催した。</p> <p>3. 【外来部門】 急変時の受入及び検査等での連携体制を構築すべく、大阪市北区にある病院(加納総合病院、住友病院、大阪中央病院、桜橋渡辺病院、大阪府済生会中津病院、北野病院、行岡病院)には開設前に院長とともに挨拶に伺うことで、実際に開設後に受け入れを依頼した際(緊急オペの事例もあり)もスムーズに連携を行うことができた。また、オープン検査(特に MRI、内視鏡)についても実際に医師と足を運んだクリニックからは確実に依頼が増えており、2023 年度においてはさらに連携範囲の拡大を図る計画である。</p> <p>【人間ドック部門】 1 名のみ受診者として他施設のサービスを経験したが、運用を検討する上で参考になる部分も多かったため、対象人数については精査する必要があるものの他施設での顧客体験については定例化していきたい。 営業実績は以下のとおり ・既存契約先への定期訪問数⇒309 社 ・新規企業への訪問数⇒109 社 ・新規契約数⇒24 社</p> <p>4. 開設に向け、複数回のリハーサル、キャンペーン等を行い、特にキャンペーンについては利用した教職員に対してヒアリングも実施することで、開設後の運用を検討するうえでの材料とすることができた。 また、顧客向けのアンケートについては他施設のものを参考に刷新するとともに、オープンクエスト中心の開設時アンケートも追加で作成することでより詳細な意見を集約できる体制とした。このことによりちょっとした什器の配置や、案内不足の解消等については掲示物等の工夫も含め迅速に対応できた。したがって内容も若干見直しこのオープンクエスト中心のアンケートも継続していくこととしたが、開設からの時間が経過するにつれ回収率が低下しているため、改善は必須である。 さらに外来についても初回に記載いただく書類になぜ当クリニックを選んでいただいたのかという項目を追加することで、今後の戦略の参考にしようと考えていたが、未記載の方も多くこちらも改善が必要である。</p>
2	<p>【事業名】 新病院建設計画にかかる実施設計の実施</p> <p>【事業の概要】</p> <p>1. 新病院棟の実施設計の実施(2022 年度複数年計画)</p> <p>2. 新病院棟の工事請負契約締結</p>	<p>1. ・医療機器更新計画及び什器配置計画の策定 ・新病院棟整備に向けた各種 WG(外来・病棟運用、情報システム、患者サービス)の実施 実施設計ヒアリングについては 2021 年度で終了したが、一部再ヒアリングを実施し関係部署との調整を行った。5 月から 7 月にかけて医療機器ヒアリングも実施され、新規・更新・増設機器の整備区分を行い、新病院棟にかかる医療機器の概算金額の算出を行った。2023 年 4 月より再度機器ヒアリングを実施し、購入の抑制に向けた提案を医療機器コンサルと進めながら金額を更に精緻化していく。</p>

	<p>3. 西宮キャンパスグランドデザインの検討・策定(跡地利用計画の検討を含む)</p>	<p>新病院棟整備に向けた各種 WG については WG により開催のバラつきがあるため、次年度より定例化にし、新病院棟内での運用を決定していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・許認可にかかる関係機関との調整 西宮市保健所及び兵庫県庁医務課へ複数回訪問し、新病院棟の平面図及び病院敷地についての協議を行い、2023年3月に許可申請を提出し、正式に受理された。 ・実施設計図書の策定(設計図、構造計算書、各種計算書) 各種書類については完成しているが、設計会社による最終的な行政への建築確認申請⇒確認済証の発行が未完了のため策定には至っていない。 <p>2.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施設計期間中の工事費増減モニタリング 実施設計時の金額の増減項目については「課題項目一覧表」として共有し、関係者で必要性を確認、対応方針も決定しながら三者協議会・グランドデザイン協議会にて報告を行った。結果 35 項目:525,673 千円(税込)の減額に至った。また、物価上昇の変動額については2023年2月時点の額が提示され、妥当性の検証は実施したが、2021年6月からと比較すると、9,449,293 千円(税込)の増額となっている。 ・合理化・コストダウン項目の抽出・提案 設計会社、施工予定者、新病院準備室より様々な VE・CD 提案は出され、結果、建築関係⇒55 項目: 613,436 千円 減額 電気・機械⇒35 項目: 385,200 千円 減額 合計 998,636 千円 約 10 億円のコスト削減項目の採用に至った。また、検討中の VE・CD(約 3.5 億)および工事着工後も更なる新規 VE・CD の提案・採用に向けて関係者で検討していく。 ・実施設計完了後、施工者による詳細積算見積内容の確認・精査 実施設計図に基づく工事費が施行予定業者より提出された。優先交渉権者選定時金額より約 80 億も増額していること、また、基本設計図⇒実施設計図へのコスト変動額として約 8.3 億円もあることから現時点で精査中である。そのため、年度内の工事請負契約には至っていない。 <p>3.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西宮キャンパスグランドデザイン、新病院建設計画基本計画に基づき、既存棟の利用計画を行う。 健康医学クリニックの梅田への移転に伴う跡地利用として、施工予定者である鹿島建設㈱に「新病院棟建設工事の工事事務所」として無償使用させる事となった。新病院棟建設工事費の中で、当初計画の「総合研修棟跡地にプレハブ工事事務所を建設」から「健康医学クリニックを工事事務所として改修(協力業者詰所のみ現場内に設置)」に変更することにより、2,904 万円(税込)の減額効果が見込まれることとなった。 新病院棟開院後の健康医学クリニック工事事務所跡地および大学会館の跡地利用等についても引続き検討していく。
3	<p>【事業名】 競争的資金の組織的獲得推進施策の継続</p> <p>【事業の概要】</p> <p>1. 研究支援体制の構築と年間計画の策定</p> <p>2. 科研費申請及び獲得推進のための各種具体的施策の継続実施</p> <p>3. AMED 委託研究開発課題他競争的資金等獲得支援策の継続実施</p> <p>4. その他公募型研究資金、共同・受託研究による企業資金等獲得支援策の継続実施</p> <p>5. 獲得支援活動の効果検証及び恒常的施策の検討</p>	<p>1.</p> <p>(1) 社会学連携・研究推進センター 産官学連携・研究推進部門による研究支援体制の構築 第 1 回部門会議(4/27)で、研究・産学連携に係る方針、産学連携・研究推進部門の役割、産学連携・研究推進部門の組織としての取組みについて検討を行い、①メンバー・役割、②具体的な支援内容について合意した。</p> <p>(2) 年間計画の策定 ①前年度活動(旧研究推進ワーキンググループ)の課題と対応策の検討 科研費支援、研究推進助成、HIC 事業、異分野交流について課題と対策を挙げ、検討を行った。なお、研究推進助成については、第 2~4 回部門会議で検討を行い規定の改定を行った。</p> <p>②年間計画の立案・策定 年間の活動計画とスケジュールを立案した。 科研費支援(セミナーと URA 作成支援)、研究推進助成(規定改定)、HIC 事業(公募と支援内容)、異分野交流(交流会:関西学院大学 12/14 と 12/22 の 2 回、島津製作所 11/17)、研究推進 WG(新規設置、部門の下部組織としての役割の明確化)。</p> <p>2.</p> <p>(1) 産官学連携・研究推進部門による以下の実施 ①科研費採択件数向上を図るための学内セミナー開催 ダイバーシティ事業との共催で、久留米大学・児島教授による少人数のワークショップ(19 名)とセミナー(57 名)を実施した(7/14)。</p>

		<p>アンケートから、参加・視聴者より非常に高評価を得た。また、セミナー参加者の科研費採択率は高かった(ワークショップ 33.3%、セミナー会場参加 61.1%)</p> <p>②研究計画レビュー又は計画書作成サポート</p> <p>26名の研究者(西宮 22名、神戸 4名)に対し、URAによる支援を行った。概要書を基にした研究全体の構想に関するアドバイスから、申請書作成の支援まで幅広く支援を行った。うち、11名が科研費採択に繋がった(萌芽 1名は未発表)。</p> <p>(2)学長又は学部長による医学部各講座等ヒアリングの実施</p> <p>学長による医学部の講座等 59部署のヒアリングを実施した(7/12-9/9)。昨年度の応募結果を踏まえ、今年度の申請計画について確認・指導を行った。</p> <p>神戸キャンパスは、ヒアリングおよび研究推進 WG より課題抽出を行い、次年度計画に落とし込む予定。</p> <p>3.</p> <p>(1)公募情報等の収集・学内発信、事業に適合する可能性のある教員への個別アプローチ効率重視し、基本的には、施策(3)で広く広報することとしている。その中で、公募情報とフィットするものは、個別にアプローチを行っている。例を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中村助教:JST さきがけへの応募 ・山原教授:AMED 岡山大橋渡し研究シーズ F へ応募 ・中込主任教授:再生医療実現拠点ネットワークプログラム応募 ・大村谷主任教授:AMED 京大橋渡し研究シーズ A 採択(支援中) → 次年度継続支援確定 ・西浦助教:AMED 創薬ブースター(今年度よりスクリーニングステージ) → 次年度予算確保、オープンイノベーション情報(支援中) ・五味主任教授:AMED 京大橋渡し研究異分野融合への応募 ・菊池准教授:AMED 橋渡し研究シーズ preF(支援中) → 次年度予算獲得 ・兼松准教授:AMED 京大橋渡し研究シーズ A、JST へ応募検討中 <p>(2)学内研究者間のマッチング、打合せ・ヒアリング等への立ち会い、申請関係資料の作成支援</p> <p>学内外の研究者のマッチングの提案・支援を行った。例を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本講師:東京大学 酒井教授 → 共同研究予定(支援中) ・中村助教:関西学院大学 吉野教授 → 共同研究中(支援中) ・大村谷主任教授、西浦助教:関西学院大学 昌子准教授 ・森准教授(リハ):内閣府からの依頼相談→産科婦人科 福井准教授、西宮市・保健所との面談調整・同席→事業提案予定 <p>(3)研究者 ML、GW による定期的公募情報等の案内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究推進課と URA が協力し、企業、財団系の研究助成や橋渡し研究の情報を収集し、定期的に発信している(グループウェア、メーリングリストにて、2回/月)。 <p>4.</p> <p>(1)各種研究資金公募情報の収集・学内発信、適合者への個別アプローチ公募情報や研究者の要望を基に、支援を行った。主な事例を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小山特別招聘教授、高橋准教授:JR 西あんしん ・鏝本教授:オープンイノベーション情報(TaNeDS) ・中込主任教授:オープンイノベーション情報(Takeda) ・西浦助教:オープンイノベーション情報(支援中) <p>(2)企業等産業界とのマッチングによる共同研究組成・推進支援(打合せへの立ち会い、プレゼン資料等の作成支援の実施)</p> <p>企業情報や研究者の要望を基に、マッチングの支援を行った。例を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本講師:株式会社ヘリオス→ 共同研究のリリース(6/3、支援中) ・菊池准教授:島津製作所・シャープ → 共同研究 ・松永主任教授:emol 社 → 共同研究(支援中)、AMED 申請中 ・高橋准教授:積木製作 → 共同研究(支援中) → プレスリリース予定 ・中村助教:LG Japan Lab との共同研究 ・鏝本教授:MPricilium Therapeutics Pty Ltd. → 協業検討中 ・兼松准教授:三菱商事、住之江織物、TISM 社と協業実施中 ・児玉講師:日本 SLC、日本クレアへ提案 ・関講師、砂山病院助手:村田製作所 → 共同研究実施予定 ・川邊助教:アビオニクス社 → 共同研究実施中(支援中) ・西浦助教、大村谷主任教授:旭化成ファーマ → 協業検討中 ・石戸主任教授:DSANJ を通じてマッチング → ベルファーマ社と NDA 締結
--	--	---

		<p>5.</p> <p>(1)大学間交流・異分野交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の研究力の低下、少子高齢化などの課題対応のため、政府は重点となる大学を選択し、大学間連携を促す方針であり、大学間等連携の重要性が増すと認識。 新たな研究テーマ創出のため、積極的な大学間等連携が必要と考え、その具体的な施策を立案・実行する。 関学との交流会を2回実施し、16の個別交流、さらに共同研究に繋げた(2件は契約締結済、3件は準備中) <p>(2)研究推進助成</p> <ul style="list-style-type: none"> 活性化助成など、研究推進助成の採択者は、科研費の採択率が50%以上という結果が得られた。学内の助成がステップとなっていると言える。 <p>(3)科研費申請支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 科研費申請の若手・初心者などでは単年で採択は困難であり、より長期的な視野での支援が必要である。 研究テーマが重要であり、新たな研究テーマを創出するため学内外の連携を深める施策を企画する。 <p>(4)新研究推進WGの立上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 若手研究者の要望・提案を反映させるため、全学的な新研究推進WGを立ち上げた。 黒田主任教授が中心となり運営し、部門会議へ提案を行った。 <p>(5)HIC事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学的取り組みとするため、同部門主体による公募・採択・支援を行った。2月にキックオフミーティングを実施済
4	<p>【事業名】 薬学部における受験生の安定的確保と学生の学習支援の充実</p> <p>【事業の概要】</p> <p>1. 薬剤師国家試験対策の強化継続と学長指示のもと薬学教育センターと連携し、学部の主導體制を更に強化する</p> <p>2. 多様な修学状況の学生に応じたフォローアップ</p> <p>3. IRによる入試、教学データのフィードバック</p> <p>4. 薬学部を主とした入試・広報戦略の策定及び実施</p>	<p>1.</p> <p>薬学教育センターとの連携において、3月には薬学教育センター長の指示の下、薬学兼務教員とともに、薬学教育センター委員会を開催し、さらなる体制強化を図った(2023.3.9教授会報告済)。</p> <p>6年次生に対しては、総合演習Ⅱの試験において新作問題を積極的に取り入れることなどを盛り込んだガイドラインを策定し、実施した。また、課外対策としては6年次生に対し、外部講師による国試対策講習会も開催した。外部模試成績に基づき、学内教員による修学指導も薬学教育センター教員と連携して実施した。</p> <p>今年度の薬剤師国家試験結果は、全国平均と同等レベルの合格率(82.5%)を維持することができ、目標合格率の80%以上を達成できた。</p> <p>2・3年次生に対する春季総合実力テストの実施、4年次生に対するCBT対策補講と模擬試験の実施、5年次生に対しては、実務実習期間中に2度の国試過去問模試の実施に加え、実務実習終了後の補完教育体制の確認を行うとともに、春季国試対策講習会および模擬試験を実施した。</p> <p>2.</p> <p>2022年度前期における新入生のアドバイザー支援方針(2022.4.14教授会承認)に基づき、定期的な面談を実施するとともに、問題のある学生等については学生カルテにより教員間で情報共有した。要支援学生に対しては、随時呼び出し、薬学教育センター教員・専任事務職員による個別面談を実施した。</p> <p>入学前課題については3学部共通課題に加え、2022年度より推薦入試合格者に対して化学・生物・数学を中心とした課題を実施し、入学後のプレイスメントテストにより学力向上状況を検証した。</p> <p>また、複数の授業において、対面授業だけでなく、その授業を録画しオンライン授業として後日Moodle上で閲覧可能として、学習効果の拡大を図った。</p> <p>3.</p> <p>(1)全学年の学修成果の管理と解析(下記)を実施し、学習支援への活用を行っている。2022年度の成績をもとに成績不良者および補講の参加状況から意欲低下が懸念される学生に対しては薬学教育センターにて面談を実施し、学習姿勢の改善を促す個別支援を開始した。また6年生の総合演習においては、模擬試験や過去の試験成績から国試合格率の期待値を示し、判定ライン決定に対する助言を行った。</p> <p>(2)薬学教育センターを基軸とした成績管理・解析とポートフォリオ構築に向けて過去5年程度の成績を薬学教育センターで統括した。情報収集と解析は今後も継続して実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年の成績収集・管理・解析 総合演習の試験問題、成績の管理と解析 6年次の模擬試験の成績の管理と解析 4年生のCBT(模試含む)の成績の管理と解析 国家試験の結果の収集・管理・解析

		<p>・各学年で実施されている補講の出席状況及び、課題テストの成績の管理と解析</p> <p>(3) 教員面談で明らかになった、研究室ごとで異なる国試対策指導法の情報を集約し、教員間で指導が統一・情報共有できるように薬学教育センター主体で、教員にむけた指導実例をWEB上で公開した。</p> <p>(4) 成績解析の結果をもとに学習オリエンテーションを1年生から4年生に向けて実施した。</p> <p>4. 連携校を対象に新たな企画として高大連携プログラムを7月に開催した。高校低学年を対象に職業理解プログラム(4学部連合)、志望学部が確定した高校生を対象に大学教育プログラム(学部毎)を実施し、連携校の高校生261名(うち職業理解プログラム50名、薬学部55名)の参加があり、連携校との関係を強化した。高校訪問については、例年、連携校は年3回(6月～、9月～、2月～)、重点校と地方校は年2回(6月～、9月～)、一般校は年1回(6月～)の頻度で訪問しているが、今年度から医学部重点校を新設し、医学部入試担当者が6月に訪問を実施した。また、重点校も従来の年2回から年3回に訪問回数を増やした。連携校、重点校、地方校の9月訪問では、学校推薦型選抜公募制・薬学部指定校制の出願促進を重点的に行った。連携校に重点校を加えた3月訪問では春のオープンキャンパスの告知、今年度入試結果速報、次年度入試の変更点等を報告し、次年度入試に繋げる取り組みを実施した。10月に高大連携協議会を開催し、高校との合同研修会の実施、高校で実施している探究活動に関する意見交換を行った。連携校に対する入試制度、探究活動支援は次年度継続して検討する。</p>
5	<p>【事業名】 統合後の大学運営体制を確立するとともに、教職員の一体感の醸成を図り、スピード感を持って課題解決に取り組む</p> <p>【事業の概要】</p> <p>1. 新大学の運営方針等の発信及び大学運営の確立</p> <p>2. 新たな教育施策 (1) 多職種連携教育(IPE)の実施 (2) 学生の進路選択支援策の実施</p> <p>3. 教職員の相互交流による共通課題、共通認識の促進</p>	<p>1. (1) 大学の新規部門として、薬学教育センター、臨床教育統括センター、社会学連携・研究推進センター、キャリアデザインセンター、IR室については、役割、業務等HPに掲載を完了した。 (2) 統合後の組織における会議体等は確実な運用を完了した。 (3) 大学運営会議にて運営体制について各学部長等から意見聴取し、「大学運営の点検・提言」による点検・評価を実施した。次年度に向けて必要により修正予定であるが、キャンパス協議会については2022年度実績を勘案し、2023年度より月2回開催を1回とし、必要時は臨時開催する予定。</p> <p>2. (1) 従前の早期臨床体験実習Ⅰ、Ⅱ、在宅ケア(訪問看護)実習、チーム医療演習に加えて、学部・職種を超えた多職種連携教育(IPE)の更なる充実を図るため、4学部合同で「多職種連携総合臨床実習」を実施した。 ・日程:2022年9月5日(月)～9月9日(金) ・施設:ささやま医療センター 内科、総合診療、整形外科など ・参加学生:医学部(当該時期に臨床実習を行うグループの一部として実施)第5学年次生6名、薬学部第5学年次生3名、看護学部第4学年次生3名、リハビリテーション学部第4学年次生4名(理学療法学科2名、作業療法学科2名) (2) 大学統合後の新しい多職種連携教育として、選択専門コースを設置。そのうち、3学部共通コースとして、①公務員受験コース、②フィジカルアセスメント達人コース、③解剖生理・病態生理学修コースを導入した。 ①公務員受験コース:医療系公務員を受験する学生への支援を医療系公務員受験コースとして整理し可視化できるよう、従来から実施している支援内容の充実を図った「医療系公務員就職支援プログラム」として整備した。 ②フィジカルアセスメント達人コース/全4回:受講者2名(リハビリテーション学部理学療法学科第4学年次生) 10月～11月にかけて神経や胸部、頭部等の診察を主題とした実習(うち1回講義)を計4回実施し、全4回出席した2名に修了証を授与した。 ③解剖生理・病態生理学修コース/全6回:受講者55名(薬学部第5学年次生9名/看護学部第4学年次生8名/リハビリテーション学部理学療法学科第3学年次生25名、第4学年次生5名/リハビリテーション学部作業療法学科第3学年次生6名、第4学年次生2名) 10月～11月にかけて循環器や消化器、呼吸器等を主題とした講義を計6回実施し、全6回出席した42名に修了証を授与した。</p> <p>3. (1) 幹部教員FDについては、コロナ禍により学内(教育研究棟)にて、2022年9月9日(金)・10日(土)に実施し、両キャンパスで43名の教員が参加した。</p>

		<p>(2)多職種連携関連については、2022年11月22日(火)に昭和大学医学部木内教授により「多職種連携教育の先進的な取り組み」をテーマとしてFDを実施した。出席50名、WEB視聴76名、計126名の教員が参加した。</p> <p>(3)教育力向上セミナー・神戸キャンパス3学部合同FDとして、京都大学大学院医学研究科 医学専攻分子生体統御学講座 医化学分野 竹内教授により「自然免疫の制御と疾患～ Regnase 1 による サイトカイン mRNA 制御の役割～」をテーマとしてFDを実施した。出席49名、WEB視聴50名、計99名の教員が参加した。</p>
6	<p>【事業名】 特定機能病院における医療の質の管理体制の構築</p> <p>【事業の概要】 1. 医療安全管理、感染制御を含む医療の質管理部門の体制整備</p> <p>2. 診療情報管理部門、医療支援センターの機能強化</p> <p>3. 院内ガバナンスの強化、病院経営管理の体制整備</p>	<p>1.</p> <p>●医療の質管理部門の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全、感染制御担当副院長の配置 →医療安全管理担当副院長は配置し、感染制御担当は病院長が直接対応することとした。 ・医療安全管理部(長)、感染制御部(長)の役割、責任の見直し →機能評価の指摘事項に基づき見直しを行った。 ・医療の質管理部門担当事務組織の整備 →2022年3月の改善策提出後、C評価であった項目の改善も含め、「医療の質」を管理する部門の設立を検討し、2022年10月1日の組織改編で医療マネジメント課を設立した。安全・感染、その他の部門と連携を取り、指標に基づいて実施した行動について確認・検証を行う部署。病院機能評価機構の「医療の質可視化プロジェクト」にも参加し、他施設とのベンチマークも行った。今後も外部で募集のある可視化プロジェクトには積極的に参加し、同時に院内独自の指標作成も行い、可視化を進め医療の質向上につなげる。 <p>2.</p> <p>●診療情報管理部門の機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明同意に係る運用ルールの整備 →院内ルールである「説明と同意に関する取扱要領」をより明確化させるために全面的な改定を行い、また、同席基準である侵襲的処置・検査一覧の見直しも完了し、通知を残すのみとなっている。また、課内においても担当者を増員し、新規改訂申請方法見直し、承認同意書一覧の整備、未使用調査等、効果的に管理運用できるよう見直し強化を進めている。 ・文書、マニュアル等の管理体制の構築 →最新分を常に電子カルテ初画面へ掲載する運用が確立している。過去からの一連の改訂箇所が分かる様に改訂箇所情報も併せて掲載している。また、掲載内容に変更がないか掲載依頼部署に定期的に確認する通知を行っている。 ・診療情報管理士の計画的配置、養成 →2022年10月1日より発足した医療マネジメント課において、まずは優先度の高い事案(医療の質指標、術後 SSI、褥瘡対策等)に対して現員の診療情報管理士を配置し、各々のデータマネジメントを推進している。 ・クリニカルパスの効果的運用、改善に向けた取り組み →バリエーション発生状況・適用患者平均在院日数一覧の定期的なフィードバックができています。設定日数に問題があるパスについて、医事課と共同で根拠資料を作成し、個別に現場と調整を進めている。 ●医療支援センターの機能強化 ・担当副院長の配置 →医療支援センター長を担当副院長としたことで、病院幹部会を通じた問題提起や企画説明などが行われるようになり、地域連携課題に関する議論が活発化した。 ・返書数増加に向けた施策の実施、データ管理 →返書もう一通キャンペーンの効果検証を実施。キャンペーン期間中については返書数の増加がみられた。ただ、キャンペーン終了後は返書件数が元に戻っていることから、継続的な声掛けが必要であることを院内で共有した。このことを受け、紹介を受けてから返書を書くまでのタイムラグを考慮したうえで、月単位の指標を構築した。11月の病院幹部会にて概要報告の上、2月より公表し各科への改善を促している。今後、返書指標を院内のインディケータの一つとして活用していく。 ・システム導入による地域連携データの集約、活用 →今後、戦略的な病院訪問などを実施するにあたり、紹介医療機関の分析を実施した。ABC分析や過去の年度との比較による減少数・減少率の大きい医療機関のピックアップ等を行った。昨年度から開始した診療科への訪問活動支援業務の活性化に向けて、2023年度に各診療科別の連携データを各科へ提示すべく準備を行っている。 <p>3.</p> <p>●院内ガバナンスの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副院長の役割、責任の明確化 →機能評価の指摘に基づき、副院長の役割分担を明確化した。

		<ul style="list-style-type: none"> ・医療の質向上に向けた管理体制、意思決定フローの見直し →事務組織を10月1日付で再編し、医療マネジメント課を新設し、機能評価の指摘事項の改善を通じ、医療安全、感染制御との連携強化、状況把握等管理体制が整ってきている。また、病院長、医療安全管理部長、高難度新規医療技術評価委員会等医療安全関連の委員会委員長の意思決定権限が明確となった。また、看護師に医療クオリティマネージャー養成研修を受講させるなど医療の質向上に向けた取り組みも行っている。 ●病院経営管理の体制整備 ・病院経営(運営)を企画管理する会議体の設置 →2022年4月に病院経営管理委員会を設置し、病院幹部を構成員として毎月1回開催している。経営分析システムから作成した各種データを元に病院の経営状況の把握、病院が取るべき経営戦略を議論している。 ・経営分析システムの導入、活用 →分析システムを導入したことで、地域の医療機関の患者数比較、入院収入分析や外来収入分析の年度比較、前年同月比較などが視覚的に検証できるようになった。 ・予算、事業計画の計画的策定と進捗管理を行う運用体制の構築 →病院予算の大部分を占める医療機器更新に関して、機器備品WGの評価方法を改めて運用を始め、計画的にWGでの検討を重ね機器選定が行えた。
7	<p>【事業名】 公設民営を目指した病院再編・効率化による地域医療体制の構築</p> <p>【事業の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 丹波篠山市、岡本病院、ささやま医療センターの協議による適正な病院機能、病床規模、設置形態の確定 2. 確定した病院機能・病床機能変更に向けて、実施項目の整理 3. 上記項目の実施スケジュールの策定 4. 上記スケジュールに基づく移行作業・変更作業の開始 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ささやま医療センターと岡本病院の病床規模、病床機能については、2021年12月に丹波篠山市からコンサル会社のコンサル結果の報告が行われ、ささやま医療センターの病床数、病床機能は現行通りとし、岡本病院は一般病床をなくして介護医療院等へ転換し、救急医療機能と急性期医療機能をささやま医療センターに集約することが望ましいとされた。また、ささやま医療センターの経営形態について優先順位がつけられており、1番は現行通り丹波篠山市と学校法人兵庫医科大学との協定方式、2番目は学校法人兵庫医科大学を指定管理者とする指定管理者制度、3番目はその他の法人を指定管理者とする指定管理者制度、4番目は独立行政法人化もしくは市の直営方式であるとの説明が行われた。その後、この案を基に第3回丹波篠山市地域医療関係者会議が7月21日に開催された。しかし、同会議では20数名の委員が各々の立場で発言を行い、結論がでなかったため、分科会を開催し協議、検討を行うこととした。内容としては、第1分科会:「ささやま医療センターの経営状況と市からの補助金」、第2分科会:「今後、丹波篠山市に必要とされる医療とそれを確保するための方策」、第3分科会:「ささやま医療センターと岡本病院の統合の課題」、第4分科会:「協定方式、指定管理方式の現状と課題」、第5分科会:「市や医師会あるいは両者による病院運営は可能か」である。さらに、同分科会が9月1日に開催され、本学は、第1・3・4分科会に出席した。第1・3分科会は10月に2回目が開催された。続いて、11月17日に第4回目の全体会議が開催され、各分科会報告等が行われた。また同会議では、ささやま医療センターと岡本病院の統合は行わないこと、ささやま医療センターの経営形態の協議については、兵庫県も立ち会い丹波篠山市と兵庫医大で今後に向けた話し合いを行うこととなった。 2. 2022年11月17日開催の丹波篠山市地域医療関係者会議で岡本病院との統合は行わないこととなり、同病院は今後介護の方にシフトする方向性を出しているため、3者での病院機能等調整に係る協議は行わない。 3. 2022年11月17日開催の丹波篠山市地域医療関係者会議で岡本病院との統合は行わないこととなり、同病院は今後介護の方にシフトする方向性を出しているため、3者での病院機能等調整に係る協議は行わない。 4. 2022年11月17日開催の丹波篠山市地域医療関係者会議で岡本病院との統合は行わないこととなり、同病院は今後介護の方にシフトする方向性を出しているため、3者での病院機能等調整に係る協議は行わない。

2. 法 人

○ 2022年4月、創立50周年を機に新たな兵庫医科大学が誕生～医系総合大学として生まれ変わる～

2022年4月に学校法人兵庫医科大学は創立50周年を迎え、法人内に設置されていた兵庫医科大学と兵庫医療大学を統合した。これにより、兵庫医科大学は、「薬学部」、「看護学部」、「リハビリテーション学部」の3学部と「薬学研究科」、「看護学研究科」、「医療科学研究科」の3研究科を新設し、4学部4研究科を擁する『新生』兵庫医科大学として歩み出した。

【名称】 兵庫医科大学 (英語表記)HYOGO MEDICAL UNIVERSITY

【学部・大学院】 (学 部) 医学部・薬学部・看護学部・リハビリテーション学部

(大学院) 医学研究科・薬学研究科・看護学研究科・医療科学研究科

【学生数】 (2022年4月1日現在)

学部学科名		入学定員	収容定員
医学部	医学科	112名	672名
薬学部	医療薬学科	150名	900名
看護学部	看護学科	100名	400名
リハビリテーション学部	理学療法学科	40名	160名
	作業療法学科	40名	160名
合 計		442名	2,292名

研究科名	専攻	課程	入学定員	収容定員
医学研究科	医科学専攻	博士課程	40名	160名
	先端医学専攻	博士課程	20名	80名
薬学研究科	医療薬学専攻	博士課程	3名	12名
看護学研究科	看護学専攻	修士課程	8名	16名
医療科学研究科	医療科学専攻	修士課程	8名	16名

○ 宝塚市と医療等における連携協定を締結

宝塚市と学校法人兵庫医科大学は、地域医療の発展に寄与することを目的とした連携協定を締結し、2022年4月7日、宝塚市役所にて締結式を執り行った。

連携内容	
医療連携	① 高度医療を必要とする患者の兵庫医科大学病院での受け入れ
	② 3次救急患者などに対する医療連携
	③ 先進的医療機器及び医療システムの共同利用
	④ 新興感染症に対する医療提供
	⑤ 災害時の相互応援
	⑥ 兵庫医科大学と宝塚市立病院の学術交流
全職種にかかる人事交流・研修	
病院経営、医療の質などに関する相互の指導・助言	
その他本協定の目的に沿うこと	

○ 「大阪梅田ツインタワーズ・サウス」内に「兵庫医科大学 梅田健康医学クリニック」が誕生～予防医療から治療までシームレスかつ一貫した医療を提供～

開学 50 周年記念事業の 1 つとして、2022 年 10 月 1 日に大阪の中心地である梅田にクリニックを開設した。

地域の人々を守る大学病院として多くの人々の健康増進やサポートに貢献するため、また先進的な医療を提供する大学病院をより身近に感じていただくために、「人間ドックエリア」のほか、「クリニックエリア」を設けた。「クリニックエリア」では保険診療を実施し、大阪梅田ツインタワーズ・サウスで働くワーカーをはじめ、梅田を拠点とする全ての人々の健康をサポートする。また、引き続き兵庫医科大学病院と連携を図ることで、予防から治療までシームレスかつ一貫した医療を提供する。同病院で手術を受けた患者さんが、本クリニックで担当執刀医から術後診断を受けられようにするなど、両院で一体となって利便性の高いサービスを提供する。

【名称】 兵庫医科大学 梅田健康医学クリニック

【設置場所】 大阪梅田ツインタワーズ・サウス(大阪市北区梅田 1 丁目 13 番 1 号) 13 階

【面積】 約 350 坪(1,150 平方メートル)

○ 内部監査室

1. 業務・会計監査の実施

- ① 定例監査 兵庫医科大学の公的研究費(2021 年度執行分)
- ② 産業廃棄物の管理(篠山キャンパス)
- ③ 放射性同位元素等の取扱い及び管理(神戸キャンパス)
- ④ 防火体制(篠山キャンパス)
- ⑤ 診療録の管理(医科大学病院)
- ⑥ BCP 策定状況
- ⑦ 私立大学等経常費補助金の申請、算定(次年度へ繰越)
- ⑧ 安全衛生管理体制(神戸キャンパス)

2. 公益通報の申立窓口事務

申立なし

3. 監査の情報交換

日本内部監査協会、大学監査協会及びその他外部セミナーへの参加

4. 監事、監査法人との連携・情報の共有

- ① 三様監査連絡会参加(監事および監査法人と情報交換の開催)3 回(5 月、9 月、3 月)
- ② 監事会オブザーバー参加 6 回(奇数月)
- ③ 決算監事会参加(5 月)
- ④ 監査法人の監査計画説明会参加(9 月)

○ 補助金

1. 2022年度 私立大学等経常費補助金

(単位:千円)

	一般補助	特別補助	合計	(参考)	
				2021年度	2020年度
兵庫医科大学	1,930,936	105,881	2,036,817	1,274,608	1,400,952
兵庫医療大学※				334,067	399,588
合計	1,930,936	105,881	2,036,817	1,608,675	1,800,540

※ 2022年4月に兵庫医科大学に統合。

2. 令和4年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業

(単位:円)

	合計	(参考)	
		2021年度	2020年度
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特性対応型)	25,280,100	26,227,280	24,755,460

○ 保育事業利用実績

		利用者数	対前年度
病児保育室		延 35 名 (登録者数 188 名)	72.9% (102.7%)
保育園ポポラー			
	本学専用枠(月極)	平均 25 名	96.0%
	夜間保育	延 284 名	82.3%
	祝日開院日(全 3 日)	延 27 名	

○ ダイバーシティ推進事業

1. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業について

主に若手の研究力・研究意欲の向上を目指した支援活動及び女性医師・研究者顕彰による次世代リーダーの発掘に注力した。優秀な女性研究者に特化した支援を行い、確実に昇任できる仕組みを構築するため「ダイバーシティプロジェクト教員制度」を新設した。

2. 「2022年度 兵庫医科大学 女性医師・研究者顕彰」を実施

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業の一環として、「女性医師・研究者顕彰」を行った。2022年度は、特に学術的な成果を挙げたものを顕彰する「女性研究者学術部門」(優秀賞・若手未来賞)、リーダーとして功績を挙げた、あるいは今後リーダーとして活躍ができるものを顕彰する「トップリーダー部門」(ロールモデル賞・次世代リーダー賞)を設けた。計7名が受賞し、2023年3月7日に授賞式を執り行った。

3. 研究力向上のための「科学研究費助成事業(科研費)の申請セミナー」を開催

社学連携・研究推進センター 産学連携・研究推進部門と共催し、講師に「科研費獲得の方法とコツ」の著者である久留米大学 児島将康教授を迎え、本学研究者の研究力向上を目的としたセミナーを開催した。前半は、主に若手研究者を対象としたワークショップを行い“科研費申請の基本や獲得することの意義”、“研究目的に見合った方法の選び方の重要性”などを実践的に習得できる機会を設けた。また、後半には全研究者を対象とした講演会を行い、参加者の採択率は37.8%に上った。

○ 兵庫医科大学保健管理センター

2022 年度の主な事業報告は次のとおり。

今年度から、全キャンパス職員を対象とした保健管理センターに組織が変更となった。

1. 健康診断関係

- 神戸キャンパスに加え、西宮及び梅田キャンパス職員の健康診断についても、今年度から近畿健康管理センターに委託し実施した。
各健康診断の実施延人数は次のとおり。

健康診断種類	西宮	神戸	梅田
定期健康診断	3,065	175	33
特定業務従事者健康診断	803	0	0
電離放射線特殊健康診断	1,125	16	8
有機溶剤特殊健康診断	106	0	0
特定化学物質特殊健康診断	25	0	0

2. 感染対策関係

- 新型コロナウイルス感染症関連の対応

- ・ COVID-19 sharing system の導入

新型コロナウイルスに罹患した職員及び患者の情報と、罹患者との接触者情報及び就業制限の情報を一元管理するため、保健管理室、感染制御部、看護部役職者が簡易に入力、参照できるシステムを構築、導入し、罹患者増加期の対応の効率化を図った。

なお、本システムは厚生労働省「令和 4 年度新型コロナウイルス感染症患者等入院受け入れ医療機関緊急支援事業補助金」対象として申請している。

- ・ 職員の発熱外来受診及び濃厚接触者の情報収集の効率化を図った。

発熱外来受診希望者と濃厚接触者の増加に伴い、保健管理センターの外部ホームページに掲載した Google フォームへの入力による受付とし効率化を図った。

- ・ 新型コロナワクチン 4 回目の集団接種を実施した。

- ・ 新採用者の感染性予防対策について

入職後に実施していた法人費用負担によるワクチン接種及び抗体価検査を廃止し、2022 年度の採用者からは感染性予防対策(ワクチン接種による免疫獲得)を入職前に行うこととし、免疫獲得に伴う費用も入職者の自己負担とした。

3. WHS(健康管理システム) の全キャンパス利用について

WHS の利用を西宮キャンパスのみから神戸、篠山キャンパスに広げ、全キャンパスの職員及び学生の健康情報及び感染性ウイルス抗体価及びワクチン接種歴の一元管理が可能となった。

4. ストレスチェックの実施

事業主に義務付けられている、心理的な負担の程度を把握するための検査「ストレスチェック」を厚生労働省が公表した指針に基づき、外部機関（ティーパック株式会社）に委託して Web 方式で 11 月に実施した。

キャンパス全ての常勤職員を対象に実施し、結果は以下のとおりであった。

区分	実施率	高ストレス者率	報告会
全体	85.5%	17.1%	2023 年 1 月 理事長に報告
西宮	85.6%	17.5%	2023 年 2 月 安全衛生委員会に報告
神戸	84.2%	14.1%	2023 年 2 月 神戸キャンパス協議会に報告 2023 年 3 月 衛生委員会に報告
篠山	85.3%	15.5%	2023 年 3 月 衛生委員会に報告

5. 職場巡視

2022 年 10 月から、神戸キャンパスの職場巡視を実施した。

6. セミナー及び研修会等の実施

日時 場所	セミナー等	参加 人数
2022 年 12 月 1 日～ 2023 年 1 月 7 日 E+ラーニング 株式会社エデュテイメント プラネット(EP)	Q&A で学ぶ働きやすい職場づくり 一般職員 メンタルヘルスセミナー 「セルフケア」	2,120 名
	Q&A で学ぶ働きやすい職場づくり 管理監督者 メンタルヘルスセミナー 「ラインケア」	970 名
	Q&A で学ぶ働きやすい職場づくり 全職員 ハラスメントセミナー 「パワーハラスメント」	3,090 名
2022 年 11 月 1 日～ 2022 年 11 月 30 日 RenoBody (アプリ)	ウォーキングイベント 「てくてく兵医うお〜く」	292 名

○ 情報センター

1. 情報センター運営協議会

今年度 10 月及び 2 月(臨時)に開催、次年度の新規システム導入や既設システム更新等の各部署要望を取り纏め、必要性や費用対効果等を踏まえ予算化の可否を協議、また情報センターの次年度予算案の協議、その他、第 3 次中期事業計画案や情報セキュリティポリシー策定案について協議を行った。

2. 2022 年度事業計画の完遂

(1) ICT 基本計画の策定

情報センターにて立てた「ICT 基本戦略」より個別戦略として掲げた 5 分野(教育、研究、診療、業務、情報基盤)について、今後 9 年間で 3 期に分けて、新規システム導入及び既設システム更新の時期や概算費用を取り纏め、更新計画を策定した。

(2) 梅田健康医学クリニック開設対応

梅田健康医学クリニックの開設に向けたシステム及びネットワークの構築・整備を主体的に行った。

3. 2022 年度の新規システム導入及び既設システム更新

(1) 西宮キャンパス

- ① 病院系(血液浄化、医薬品在庫管理、病棟業務支援、診察券発行、高精細モニタ、病院経営情報分析、医療関係者間コミュニケーションアプリ等)
- ② 法人系(人事マネジメント、通勤費管理、COVID-19 管理)
- ③ 大学系(実験審査申請)
- ④ ネットワーク系(フロアスイッチ、無線 LAN 機器、学生用 SSID、SSL-VPN 装置)

(2) 神戸キャンパス

- ① 大学系(出欠管理、学生カルテ)
- ② 法人系(IP 電話)
- ③ ネットワーク系(無線 LAN 機器)

(3) 篠山キャンパス

- ① 病院系(オンライン資格確認)

(4) 梅田キャンパス

- ① 梅田健康医学クリニック開設(10 月)に伴うシステム及びネットワークの構築(健診、電子カルテ、医事、放射線、臨床検査(内視鏡、生理検査、超音波・心電図、病理)、WEB 予約、患者用 Wi-Fi)
- ② 病院系(オンライン資格確認)

4. 業務支援

RPA 推進

- ① 既導入部署(人事部、病院事務部、物流センター、財務企画部)への開発・支援継続、拡大対象部署(篠山事務部、大学事務部(西宮・神戸))への新規開発・支援、及び開発担当者の育成をした。
- ② 2022 年度事業計画と連動し、事務局全体に向けた業務改善の推進を行った。

5. その他

- ① 情報セキュリティポリシーの策定(対策基本方針、対策基本規程)
- ② 情報セキュリティ研修の実施(eラーニング)
- ③ ランサムウェア対策の検討(バックアップ、EDR)
- ④ 経営改善ソリューショントライアル(診療報酬改善、材料費改善)

- ⑤ 紙申請書の電子化対応(各種アカウント申請、検討作業依頼)
- ⑥ 診療科統合対応(電子カルテ)

○ 物流センター

1. 医療材料・消耗品の価格低減推進

資源価格の高騰と円安による原材料価格の上昇が物品価格に転嫁される状況下、SPD と連携してコスト改善に向けた対応を継続した結果、医療材料・消耗品の価格低減に係る期間目標の初年度達成率は堅調に推移した。また、随時ベンチマーク等の情報を利用して価格削減交渉や商品の切り替えを行った。

2. 篠山キャンパスを含めた物品調達業務の一元化

各キャンパスで行っていた物品調達業務について、先に統合した神戸キャンパスに続いて篠山キャンパスを含めた一元化を進めることとし、紙媒体の帳票(調達請求書)の電子申請化により全キャンパスでの受発注処理を集約のうえ運用を開始した。

3. 使用済み機器売却への着手

機器の更新時における現有品の取り扱いについて、従来は廃棄を前提に処分していたが、入れ替えコストの圧縮や資源の再利用を念頭にこれを売却することを検討し、買い取り業者を調査・選定のうえ今年度より実施を始めた。

○ 施設課

1. 西宮キャンパス

- (1) 土地・建物の状況 24 ページ参照
- (2) 建物・設備等の主な改修及び更新
 - ① 9号館・立体駐車場他解体工事
 - ② 電話交換機更新工事
 - ③ 急性医療総合センター 間接蒸気発生器更新工事
 - ④ 教育研究棟 6～11階南側防音工事
 - ⑤ 平成記念会館 アリーナ床面補修工事

2. 篠山キャンパス

- (1) 土地・建物の状況 25 ページ参照
- (2) 建物・設備等の主な改修及び更新
 - ① 職員宿舎 C 棟・D 棟解体工事
 - ② 学生宿舎棟 E 棟・F 棟・G 棟・集会所解体工事
 - ③ 看護師、研修医宿舎 A 棟・B 棟インターホン更新工事
 - ④ リハビリテーションセンター 高圧引込みケーブル更新工事

3. 神戸キャンパス

- (1) 土地・建物の状況 25 ページ参照
- (2) 建物・設備などの主な改修及び更新
 - ① アーカイブズ室設置工事
 - ② 電話システム更新工事

土地・建物の状況

○ 西宮キャンパス

建物区分	規模・構造	延床面積 登記(m ²)	使用区分	所在地及び 敷地面積(m ²)
1号館 (校舎・病院)	SRC・S造 地下 1階 地上 13階 塔屋 2階	43,134.11	病院、臨床系研究室	武庫川町 20,574.02
1号館附属棟 (事務所、食堂)	S造 4階	1,602.48	病院管理部門、食堂、売店	
2号館 (校舎・病院)	RC造 塔屋 6階 1階	5,563.50	病院、臨床系研究室、学生自習室	
教育研究棟 (校舎・講堂)	S造 塔屋 12階 1階	30,827.24	講義室、学生実習室、管理部門	
新立体駐車場 (車庫)	S造 6階	14,071.07	立体駐車場、車庫	
デッキ棟 (店舗・倉庫)	S造 3階	642.71	店舗、倉庫	
廃液・廃棄物倉庫棟	W造 2階	246.24	清掃事務所、倉庫	
小計(西側敷地)		96,087.35		20,574.02
8号館 (校舎・病院)	SRC・S造 地下 1階 地上 8階 塔屋 1階	12,694.74	病院、臨床系研究室	武庫川町 20,366.32
10号館 (病院)	SRC造 地下 1階 地上 10階 塔屋 1階	18,744.41	病院、管理部門	
急性医療総合センター (病院)	RC造 7階	15,239.17	病院	
資料室 (資料室)	S造 塔屋 2階 1階	2,717.76	病院、病歴資料室	
マニホールド室 (配管室)	S造 1階	15.37	マニホールド室	
小計(東側敷地)		49,411.45		20,366.32
平成記念会館 (講堂・体育館)	SRC造 地下 1階 地上 3階	5,642.92	体育館、部室、クラブハウス、講堂	小松南町 6,869.00
アーチェリー練習場他	-	-	アーチェリー練習場、ゴルフ練習場	小松南町 3,575.05
大学会館等 (学生会館)	S造 2階	531.57	食堂	池開町 452.89
留学生宿舍	W造 2階	89.01	宿舍	池開町 78.08
PETセンター (病院)	RC造 4階	1,856.80	病院	池開町 1,048.34
総合グラウンド	-	-	野球場・陸上競技場他	鳴尾浜
クラブハウス等 (クラブハウス)	S造 1階	498.85	クラブハウス、倉庫等	
救護室	S造	70.07	救護室	33,064.00
東鳴尾テニスコート	-	-	人工芝テニスコート3面	東鳴尾町
東鳴尾テニスコート更衣棟	CB造	47.55	更衣室	2,706.70
旧健康医学クリニック	RC造 3階	1,488.88	事務所	池開町 516.04
総合研修棟跡地	-	-	総合研修棟跡地	武庫川町 829.77(借地)
小計		10,225.65		47,794.06
合計		155,724.45		88,734.40

土地・建物の状況

○ 篠山キャンパス

建物区分	規模・構造	延床面積 登記(m ²)	使用区分	所在地 及び 敷地面積(m ²)
ささやま医療センター (病院)	RC造 4階	11,634.22	病院	丹波篠山市 郡家字八ノ坪 黒岡字よし池ノ坪 黒岡字葭池ノ坪 敷地面積(m ²) 17,037.70 丹波篠山市 山内町 黒岡字土井西池ノ坪 黒岡字西池ノ坪 借地面積(m ²) 19,825.14 (丹波篠山市より無料貸与)
倉庫 (倉庫)	CB造 平屋建	52.50	倉庫	
病院	S造 地下1階 平屋建	1,089.33	病院	
看護師宿舍棟 (寄宿舎)	RC造 5階	1,214.71	宿舍(36戸)、ポンプ室、	
研修医棟 (寄宿舎)	RC造 4階	695.08	宿舍(15戸)、管理室、図書室、 討議室、講義室	
リハビリテーションセンター (リハビリテーションセンター)	RC造 平屋建 1部 S造	1,650.13	理学療法室、作業療法室、 動作評価室、診療室、他	
老人保健施設 (老人保健施設)	RC造 4階 塔屋	4,361.29	事務室、食堂、浴室、他 療養室(48室)計100人	
篠山キャンパス 看護師宿舍 (共同住宅)	RC造 3階	869.65	宿舍(28戸)	
ささやまみらい (寄宿舎)	木造 2階	680.29	学生宿舍	
合計		22,247.20		36,862.84

○ 神戸キャンパス

建物区分	規模・構造	延床面積 登記(m ²)	使用区分	所在地 及び 敷地面積(m ²)
P棟 (校舎)	SRC造 3階	8,753.86	管理部門、講堂、図書館、食堂、 売店、グループ学習室、保健室	神戸市中央区港島 49,138.00
M棟 (校舎)	SRC造 4階	17,025.71	講義室、学生実習室、教員研究室、 カンファレンス室	
G棟 (校舎)	SRC造 4階	9,296.26	研究室、動物実験室、RI実験室、 共同医学研究室、リハビリテーションラボ、 教員研究室、カンファレンス室、 学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院研究室	
G棟アリーナ (体育館)	RC造 2階	2,792.26	アリーナ、部室、多目的室	
倉庫 (倉庫)	RC造 平屋建	125.06	倉庫	
守衛室 (守衛所)	RC造 平屋建	4.20	警備員詰所	
合計		37,997.35		

土地・建物の状況

○ 梅田キャンパス

建物区分	規模・構造	延床面積 登記(m ²)	使用区分	所在地
梅田健康医学クリニック	S造・一部SRC・RC構造 地下3階地上38階塔屋2階 13階部分	1,143.11	クリニック	大阪市北区梅田 大阪梅田ツイン Towers・サウス13階 (賃貸)
合計		1,143.11		

3. 西宮キャンパス 大学

○ 多職種連携教育(IPE)の充実

2022年度より大学統合によって「医系総合大学」となった兵庫医科大学において、最も大きな教育の特色である実践的な多職種連携教育(IPE)の更なる充実を図るため、従前の早期臨床体験実習、在宅ケア(訪問看護)実習、チーム医療演習に加えて、2022年9月に臨床実習の一部として、医、薬、看護、リハビリテーションの4学部合同による「多職種連携総合臨床実習」をささやま医療センターにおいて実施した(神戸キャンパス学生は希望参加)。2023年度以降においても、段階的に規模の拡充を計画中である。また、各学部における教員の多職種連携教育(IPE)に関する意識を高め、教育の質の向上を図るため、2022年11月に学外より講師を招聘し「多職種連携教育の先進的な取り組み」をテーマとした4学部合同FDを実施した。

○ 医師国家試験

1. 本学の状況

区分		新卒			既卒			計		
本年度		受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
		111	109	98.2%	4	3	75.0%	115	112	97.4%
(参考)	2021年度	108	104	96.3%	7	7	100%	115	111	96.5%
	2020年度	101	94	93.1%	3	3	100%	104	97	93.3%

2. 全国の状況(合格率)

新卒・既卒別		新卒	既卒	計
私立・全国別				
私立平均		94.6%	62.7%	92.3%
全国平均		94.9%	55.2%	91.6%

○ 2022年度 医学部進級(卒業)認定数等

学年次	学生数	進級(卒業)	留年	退学	除籍
1	127	111	15	1	0
2	123	115	7	1	0
3	106	99	7	0	0
4	107	99	8	0	0
5	118	107	11	0	0
6	124	111	12	1	0
計	705	642	60	3	0

※第1学年次退学者数は年度途中退学者を含む。

(参考)年度別 留年・退学等状況 (2016～2022 年度)

年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学生数	702	709	708	704	699	705	705
留年	50	47	42	41	50	54	60
退学	7	6	2	6	5	4	3
除籍	0	0	0	0	0	0	0
進級(卒業)率	91.9%	92.5%	93.8%	93.3%	92.1%	91.8%	91.1%

○ 医学部学生数 (2023 年 4 月 1 日現在)

1 学年次	2 学年次	3 学年次	4 学年次	5 学年次	6 学年次	合計
127	118	122	107	110	119	703

○ 2023 年度 医学部入学試験

2023 年度入試では、総合型選抜を新たに導入し卒業生子女枠と一般枠を実施した。また、従来通り一般選抜は一般選抜 A4 科目型と一般選抜 B 高大接続型、学校推薦型選抜は一般公募制、地域指定制及び特別選抜を実施した。文部科学省のガイドラインに基づき新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を行い、一般選抜 A4 科目型では昨年度同様、新型コロナウイルス感染症に罹患した等の理由で受験ができなかった入学志願者の受験機会を確保するため追試験を実施した。一般選抜第 1 次試験では大雪に伴う交通障害に見舞われ、新型コロナウイルス感染症に伴う追試験対象者とともに交通障害に伴う者も追試験対象者とした。

区 分	募集人員	出願者数	第 1 次試験 合格者数	合格者数	入学者数
総合型選抜(卒業生子女枠)	3	21	—	3	3
総合型選抜(一般枠)	3	41	—	3	3
学校推薦型選抜(一般公募制)	13	42	—	16	16
学校推薦型選抜(特別選抜)		1	—	1	1
学校推薦型選抜(地域指定制)	5	31	—	5	5
一般選抜(A4 科目型)	78	1,664	413	137	74
一般選抜(B 高大接続型)	10	253	90	10	10
合 計	112	2,053	503	175	112

○ 2023 年度 大学院医学研究科入学試験

(1) 前期募集

区分	人数	内 訳							
		医 科 学 専 攻					先 端 医 学 専 攻		
		器官・代 謝制御系	高次神経 制御系	生体応答 制御系	生体再生 制御系	環境病態 制御系	分子病態 制御系	疼痛情報 制御系	分子再生 医学系
出願者	14	7	4	2	0	1	0	0	0
受験者	14	7	4	2	0	1	0	0	0
合格者	13	7	3	2	0	1	0	0	0
入学者	13	7	3	2	0	1	0	0	0

(2) 後期募集

区分	人数	内 訳							
		医 科 学 専 攻					先 端 医 学 専 攻		
		器官・代 謝制御系	高次神経 制御系	生体応答 制御系	生体再生 制御系	環境病態 制御系	分子病態 制御系	疼痛情報 制御系	分子再生 医学系
出願者	36	14	10	8	0	4	0	0	0
受験者	35	13	10	8	0	4	0	0	0
合格者	34	13	10	7	0	4	0	0	0
入学者	34	13	10	7	0	4	0	0	0

○ 大学院医学研究科学生数（2023 年 4 月 1 日現在）

分野	1 年	2 年	3 年	4 年	合計
医科学専攻	46	37	40	74	197
先端医学専攻	0	1	1	1	3
合計	46	38	41	75	200

※3 年:薬学研究科からの転科 1 名を含む。

	専攻	学年	学生数	内訳	
				昼間履修	夜間履修
医科学専攻	器官・代謝制御系	1	20	1	19
		2	9	1	8
		3	8	3	5
		4	27	8	19
	高次神経制御系	1	12	1	11
		2	16	0	16
		3	21	3	18
		4	24	2	22
	生体応答制御系	1	9	2	7
		2	7	1	6
		3	5	1	4
		4	15	2	13
	生体再生制御系	1	0	0	0
		2	0	0	0
		3	1	0	1
		4	0	0	0
環境病態制御系	1	5	0	5	
	2	5	1	4	
	3	5	0	5	
	4	8	1	7	
先端医学専攻	分子病態制御系	1	0	0	0
		2	0	0	0
		3	0	0	0
		4	0	0	0
	疼痛情報制御系	1	0	0	0
		2	0	0	0
		3	0	0	0
		4	0	0	0
	分子再生医学系	1	0	0	0
		2	1	0	1
		3	1	0	1
		4	1	0	1
			200	27	173

○ 学位の授与

甲 号(50名)、乙 号(6名)
学位授与累計 甲 1021号 乙 437号

○ 研究費

1. 2022年度 科学研究費助成事業

(単位:円)

研究種目名	件数			総交付額	
		直接経費	間接経費		
基盤研究(B)	14	51,300,000	15,390,000	66,690,000	
基盤研究(C)	91	94,101,201	27,900,000	122,001,201	
挑戦的研究(萌芽)	4	6,700,000	2,010,000	8,710,000	
若手研究	38	38,200,000	11,460,000	49,660,000	
国際共同研究強化(B)	1	1,800,000	540,000	2,340,000	
研究活動スタート支援	3	3,300,000	990,000	4,290,000	
奨励研究	4	1,840,000	0	1,840,000	
合計	155	197,241,201	58,290,000	255,531,201	
(参考)	2021年度	145	193,620,000	57,420,000	251,040,000
	2020年度	132	166,660,000	49,710,000	216,370,000

2. 2022年度 厚生労働科学研究費

(単位:円)

研究事業名	件数			総交付額	
		直接経費	間接経費		
エイズ対策政策研究事業	1	7,161,000	2,148,000	9,309,000	
(参考)	2021年度	1	10,926,000	3,277,000	14,203,000
	2020年度	1	11,500,000	3,450,000	14,950,000

3. 2022 年度 日本医療研究開発機構 (AMED) 研究費

(単位:円)

研究事業名	件数	経費		総交付額	
		直接経費	間接経費		
創薬支援推進事業 創薬総合支援事業	1	13,636,364	1,363,636	15,000,000	
橋渡し研究プログラム	1	13,840,001	4,151,999	17,992,000	
研究公正高度化モデル開発支援事業	1	3,000,000	900,000	3,900,000	
合計	3	30,476,365	6,415,635	36,892,000	
(参考)	2021 年度	5	82,026,113	19,164,196	101,190,309
	2020 年度	6	126,672,760	33,159,276	159,832,036

○ 補助金等

1. 2022 年度エコチル調査委託事業精算金(環境省)

(単位:円)

環境省委託事業名	件数	経費		総交付額	
		直接経費	一般管理費		
エコチル調査	1	97,047,069	14,529,798	111,576,867	
(参考)	2021 年度合計	1	103,980,345	15,597,050	119,577,395
	2020 年度合計	1	90,629,250	13,594,386	104,223,636

2. 2022 年度多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン補助金分配金(文部科学省)

(単位:円)

研究事業名	件数	経費		本学分配額	
		各部署配分額	事務経費		
多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン	1	(※)	(※)	(※)	
(参考)	2021 年度合計	1	2,920,000	1,440,000	4,360,000
	2020 年度合計	1	1,440,000	2,920,000	4,360,000

(※) 2022 年度は文部科学省が予算確保できなかったため、補助金分配金は無し。

4. 西宮キャンパス 病院

○ COVID-19 感染症対応

2022年4月1日	休棟していた8階東病棟を開棟し、一般患者の入院を再開
2022年6月27日～7月7日	13階東病棟においてクラスターが発生
2022年6月29日～7月7日	13階西病棟においてクラスターが発生
2022年7月1日	入院患者への面会禁止を一部緩和(面会制限継続)
2022年7月1日	1号館の出入り口制限について、南側入り口を2カ所解除
2022年7月14日	10-5病棟においてクラスターが発生
2022年7月16日	8階東病棟においてクラスターが発生
2022年7月19日	10-5病棟(SCU病棟)に中等症以下の陽性患者を対象としたコロナ対応病床の運用を開始
2022年7月20日	全ての診療科(病棟)で、緊急を除く予定入院を中止
2022年7月21日	13階西病棟に中等症以下の陽性患者を対象としたコロナ対応病床の運用を開始
2022年7月22日	入院患者への面会禁止
2022年7月24日	7階西、10階西、11階東、10-8病棟においてクラスターが発生
2022年7月27日	13階西病棟に中等症以下の陽性患者を対象としたコロナ対応病床を10床増床し、運用を開始
2022年8月12日	10-5病棟(SCU病棟)のコロナ対応病床を解除し、通常運用を開始
2022年8月26日	13階西病棟のコロナ対応病床を解除し、通常運用を開始
2022年10月1日	全ての診療科(病棟)で、予定入院を再開
2022年10月11日	入院患者への面会禁止を一部緩和(面会制限継続)
2022年12月26日	10-4病棟及び10-6病棟に中等症以下の陽性患者を対象としたコロナ対応病床の運用を開始
2023年1月10日	10階東病棟に中等症以下の陽性患者を対象としたコロナ対応病床の運用を開始
2023年1月10日	全ての診療科(病棟)で、予定入院延期の要請
2023年1月12日	10-6病棟のコロナ対応病床を解除し、通常運用を開始
2023年1月25日	10-4病棟のコロナ対応病床を解除し、通常運用を開始
2023年1月25日	全ての診療科(病棟)で、予定入院を再開
2023年2月7日	10階東病棟のコロナ対応病床を解除し、通常運用を開始
2023年2月7日	10階西病棟に中等症以下の陽性患者を対象としたコロナ対応病床の運用を開始
2023年3月6日	10階西病棟のコロナ対応病床を解除し、通常運用を開始

○ 補助金等

(単位:円)

年度		金額
2022年度合計		3,004,501,884
(参考)	2021年度合計	3,603,962,285
	2020年度合計	1,859,354,952

○ 患者数実績

1. 大学病院

			対前年度
入院患者数	延患者数(在院+退院)	274,665 人	99.5%
	一日平均	752.5 人	99.5%
	平均在院日数(一般)	11.6 日	-0.1 日
	平均在院日数(全体)	11.8 日	-0.2 日
外来患者数	延患者数	635,382 人	100.6%
	一日平均	2,362.0 人	100.3%

2. 健康医学クリニック(2022 年 4 月～7 月)

			対前年度
人間ドック健診者数	延ドック健診患者数	870 人	—
	一日平均	9.8 人	109.4%
クリニック患者数	延患者数	208 人	—
	一日平均	2.3 人	96.3%
職員健診者数	延職員健診者数	3 人	—
	一日平均	—	—
学生健診者数	延学生健診者数	708 人	—
	一日平均	59.0 人	93.3%

3. 梅田健康医学クリニック(2022 年 10 月～2023 年 3 月)

			対前年度
人間ドック健診者数	延ドック健診患者数	2,141 人	—
	一日平均	14.9 人	—
生活習慣病予防健診者数	延生活習慣病予防健診患者数	466 人	—
	一日平均	3.2 人	—
企業健診者数	延企業健診患者数	435 人	—
	一日平均	3.0 人	—
クリニック患者数	延患者数	2,495 人	—
	一日平均	18.3 人	—

5. 篠山キャンパス

○ 丹波圏域における発熱等診療・検査医療機関及びメディカルチェックの継続

発熱等診療・検査医療機関として、2022 年度も引き続き丹波圏域を中心に発熱外来の対応を行った(年間発熱外来受診者数 3,913 名)。さらに、丹波圏域内で新型コロナウイルス罹患発生時に、従来の保健所を介して受入れを行うのではなく、開業医から直接受入要請を受けて対応する「新丹波方式」を構築し、自宅療養が可能な無症状者及び軽症者より重症化リスクの高い患者を優先させながら、外来でメディカルチェックを実施し入院もしくは自宅療養等の判定を行った。また、メディカルチェック前に自宅で事前 Ai 問診の実施、google フォームを利用した自宅療養(家族状況、感染状況及び自宅環境の確認)の可否判定、ヘルスケアパスポートによる自宅療養中の健康状態のフォロー等、情報システムを積極的に活用した診療を行った(年間メディカルチェック受診者数 752 名)。

○ 丹波圏域における新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての取組

兵庫県より 2021 年 4 月より重点医療機関として認定を受け、即応病床を 19 床配置し入院の必要な新型コロナウイルス陽性患者の受入を行ってきた。2022 年も継続して 19 床の即応病床を確保し、感染拡大期には丹波圏域の陽性患者及び兵庫県からの要請を受けた他地区の陽性患者等の入院治療を積極的に行った(年間入院総患者数 313 名)。

○ コロナワクチン接種への取組

2021 年 4 月より丹波篠山市及び医師会等からの要請を受け開始したワクチン接種を、2022 年度も引き続き院内にワクチン接種会場を設置。受付から接種後の経過観察まで職員で対応し、地域の小児～高齢者の感染対策に取り組んだ(2022 年度ワクチン接種者 5,377 名)。

○ 公設民営を目指した病院再編・効率化による地域医療体制の構築

ささやま医療センターと岡本病院の統合、またささやま医療センターの公設民営化については、2021 年 12 月に丹波篠山市からコンサル会社のコンサル結果の報告が行われた後、同報告案を基に第 3 回丹波篠山市地域医療関係者会議が 7 月 21 日に開催された。しかし、同会議では結論が出なかったため、5 つの分科会を開催し協議・検討を行った。その後、11 月 17 日に第 4 回目の地域医療関係者会議が開催され、各分科会報告等が行われた。また、同会議では、ささやま医療センターと岡本病院の統合は行わないこと、ささやま医療センターの経営形態の協議については、兵庫県も立ち会い丹波篠山市と兵庫医科大学で今後に向けた話し合いを行うこととなった。

○ その他の活動

1. 居宅サービスセンターの機能強化

訪問看護ステーションは、24 時間対応、看取り対応のほか精神科訪問看護、小児訪問看護も実施し、機能強化型訪問看護療養費 I の施設基準を維持している。また定期巡回訪問介護看護事業所も、24 時間サービスとして需要拡大、利用者増加に伴い機能強化を図っている。

2. WEB 予約の開始

外来患者数の増加、感染症対策として患者の滞留時間の短縮を目的に 4 月よりオンライン予約システム(resappo)を利用し、発熱外来、総合診療科外来の WEB 予約を開始した。予約時に来院前 AI 問診を必須としたことで、院内滞在時間の短縮が図られた(2022 年度利用者数 92 人)。

○ 補助金等

(単位:円)

年度		金額
2022年度合計		998,505,495
(参考)	2021年度合計	1,045,611,356
	2020年度合計	526,406,846

○ 患者数実績

1. ささやま医療センター

			対前年度
入院患者数	延患者数(在院+退院)	43,669 人	94.3%
	1日平均	119.6 人	94.3%
	平均在院日数(一般)	16.7 日	+1.1 日
	平均在院日数(回復期リハ)	83.9 日	+3.9 日
外来医患者数	延患者数	50,496 人	88.5%
	1日平均	207.8 人	88.9%

※外来患者数には入院中外来患者を含む。

2. 老人保健施設

			対前年度
入所利用者数	延利用者数(長期+短期)	35,074 人	103.1%
	1日平均(全体)	96.1 人	103.1%
	平均利用日数(長期)	221.9 日	+26.8 日
	平均利用日数(短期)	7.5 日	+1.5 日
通所利用者数	延利用者数	13,558 人	100.4%
	1日平均	53.0 人	97.6%

3. 居宅サービスセンター

			対前年度
訪問看護	利用者数	1,393 人	114.2%
	訪問回数	6,703 回	108.7%
訪問介護	利用者数	148 人	119.4%
	訪問回数	1143 回	145.6%
定期巡回	利用者数	143 人	98.6%
	介護訪問回数	5,828 回	96.5%
	看護訪問回数	249 回	93.6%
居宅介護支援	件数	1,726 件	99.5%

6. 神戸キャンパス

○ 新型コロナウイルス感染症対応

新型コロナウイルス感染症対応については、2022年3月22日(火)の大学協議会／プレ神戸キャンパス協議会において、教職員及び学生の健康管理、学内施設等の利用、施設的环境維持、講義・実習等、学外実習、学内での飲食、感染予防対策物品等についてのガイドラインを現状に則して見直した。

また、それ以降も適宜、新型コロナウイルス感染症対応の各ガイドラインを状況に応じて見直すことにより大きな問題もなく運営することができた。オープンキャンパス等の行事については、マスク着用や手洗い、手指消毒等の感染対策を徹底しながら計画どおり対面で実施することができた(合計7回)。

○ その他の活動

広報計画の遂行

連携校を対象に新たな企画として高大連携プログラムを7月に開催した。高校低学年を対象に職業理解プログラム(4学部連合)、志望学部が確定した高校生を対象に大学教育プログラム(学部毎)を実施し、連携校との関係を強化した。また、10月には高大連携協議会を開催し、高校との合同研修会の実施、高校で実施している探究活動に関する意見交換を行った。

高校訪問については、例年、連携校は年3回(6月～、9月～、2月～)、重点校と地方校は年2回(6月～、9月～)、一般校は年1回(6月～)の頻度で訪問しているが、今年度から医学部重点校を新設し訪問を行った。また、重点校も従来の年2回から年3回に訪問回数を増やし実施することができた。連携校、重点校、地方校の9月訪問では、学校推薦型選抜公募制・薬学部指定校制の出願促進を重点的に行い、連携校に重点校を加えた3月訪問では春のオープンキャンパスの告知、今年度入試結果速報、次年度入試の変更点等を報告し、次年度入試に繋げる取り組みを実施した。

○ 国家試験

第108回 薬剤師国家試験

区分	6年制新卒			6年制既卒		
	受験者数	合格者数	合格率<%>	受験者数	合格者数	合格率<%>
本学	97	80	82.5	111	44	39.6
本学(2021年度)	101	78	77.2	112	32	28.6
本学(2020年度)	100	83	83.0	112	42	37.5
全国	8,548	7,254	84.9	5,146	2,267	44.1

第112回 看護師国家試験

区分	新卒			既卒		
	受験者数	合格者数	合格率<%>	受験者数	合格者数	合格率<%>
本学	102	101	99.0	1	1	100.0
本学(2021年度)	92	92	100.0	1	0	0.0
本学(2020年度)	122	121	99.2	1	1	100.0
全国	58,911	56,276	95.5	5,140	1,876	36.5

第109回 保健師国家試験

区分	新卒			既卒		
	受験者数	合格者数	合格率<%>	受験者数	合格者数	合格率<%>
本学	30	30	100.0			
本学(2021年度)	30	30	100.0			
本学(2020年度)	30	30	100.0			
全国	7,477	7,235	96.8	608	344	56.6

第 106 回 助産師国家試験

区分	新卒			既卒		
	受験者数	合格者数	合格率<%>	受験者数	合格者数	合格率<%>
本学	6	6	100.0			
本学(2021年度)	7	7	100.0			
本学(2020年度)	7	7	100.0			
全国	2,055	1,971	95.9	12	6	50.0

第 58 回 理学療法士国家試験

区分	新卒			既卒		
	受験者数	合格者数	合格率<%>	受験者数	合格者数	合格率<%>
本学	44	44	100.0	1	1	100.0
本学(2021年度)	45	45	100.0			
本学(2020年度)	46	46	100.0			
全国	10,824	10,272	94.9	2,124	1,040	49.0

第 58 回 作業療法士国家試験

区分	新卒			既卒		
	受験者数	合格者数	合格率<%>	受験者数	合格者数	合格率<%>
本学	36	35	97.2	1	1	100.0
本学(2021年度)	48	47	97.9			
本学(2020年度)	42	41	97.6	1	1	100.0
全国	4,809	4,390	91.3	910	403	44.3

○ 進級認定数(2023年3月31日現在)

学部・学科	学年	学生数	進級 (卒業)	留年	退学	除籍
薬学部 医療薬学科	1	151	119	18	12	2
	2	159	83	41	34	1
	3	125	93	25	7	0
	4	130	105	19	6	0
	5	129	129 ※1	0	0	0
	6	155	(121) ※2	32	2	0
看護学部 看護学科	1	109	104	4	1	0
	2	117	107	8	2	0
	3	109	102	4	2	1
	4	102	(102)	0	0	0
リハビリテーション学部 理学療法学科	1	53	52	1	0	0
	2	50	47	1	2	0
	3	42	41	1	0	0
	4	45	(45) ※3	0	0	0

リハビリテーション学部 作業療法学科	1	46	41	3	2	0
	2	42	41	1	0	0
	3	45	43	1	1	0
	4	38	(36)	2	0	0
合 計		1,647	1,107 (304)	161	71	4

※1 薬学部第5年次の進級者については、5月教授会決定のため予定数。

※2 秋期卒業生数24名を含む。

※3 秋季卒業生数1名を含む。

○ 学部学生数(2023年4月1日現在)

学部	学科	第1学年次	第2学年次	第3学年次	第4学年次	第5学年次	第6学年次	合計
薬学部	医療薬学科	152	160	108	112	105	161	798
看護学部	看護学科	125	112	111	102			450
リハビリ テーション 学部	理学療法学科	49	53	48	41			191
	作業療法学科	37	42	42	45			166
合 計		363	367	309	300	105	161	1,605

○ 大学院生数(2023年4月1日現在)

薬学 研究科	研究指導科目分野	1年	2年	3年	4年
	臨床ゲノム薬理・分子薬物動態学	0	0	0	0
	天然薬物学	0	0	0	0
	応用医療薬学	0	1	0	0
	免疫制御学	0	0	0	1
	レドックス生物学	0	0	0	0
	神経病態制御学	0	0	0	0
	医薬品化学	0	0	0	1
	創薬化学	0	0	0	0
	臨床医薬品化学	3	3	0	0
	微生物・寄生体学	0	0	0	0
	微生物制御学	0	0	0	0
	呼吸器疾患病態治療学	0	0	1	0
	合 計	3	4	1	2

看護学 研究科	分野	特定分野	1年	2年	
	基盤看護学	基礎看護学		1	2
		看護教育学		0	0
		看護開発科学		0	2
	療養支援看護学	急性看護学		0	1
		がん看護学		1	3
		慢性看護学		1	5
		精神看護学		0	0
	家族支援看護学	小児看護学		0	0
		母性看護学		0	1
		助産学		0	0
	生活支援看護学	老年看護学		0	0
		地域看護学		0	0
在宅看護学			2	1	
合計			5	15	
医療科学 研究科	分野	コース	1年	2年	
	病態運動学	運動器障害		2	1
		内部障害		3	3
		神経障害		3	3
	人間活動科学	身体・認知活動		1	1
		精神活動		1	1
	合計			10	9

○ 職業実践力育成プログラム(BP) (2023 年 4 月 1 日現在)

プログラム・コース	修業年限	入学定員	受講者数
PT・OT 臨床カスステップアッププログラム	1	10	7
リハビリテーション科学課題研究コース	2	8	0

○ 2023 年度各学部入学試験

1. 薬学部

区分		募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
総合型選抜	一般	6	7	7	6	6
	卒業生子女対象	3	0	0	0	0
学校推薦型選抜	指定校	10	11	11	11	11
	公募制 専願前期日程	20	20	20	18	18
	公募制 併願 A 日程	10	82	81	73	22
	公募制 併願 B 日程	15	73	70	58	8
	公募制 専願後期日程	6	4	3	3	3
	公募制 併願 C 日程	8	17	17	15	9

一般選抜	前期日程(3科目型)	30	97	94	75	20
	前期日程(2科目型)	20	49	45	36	8
	中期日程	8	35	30	26	19
	後期日程	5	25	14	10	4
大学入学共通 テスト利用入試	前期日程	5	57	56	47	6
	後期日程	2	8	8	5	0
	面接併用型	2	1	1	0	0
合 計		150	486	457	383	134

2. 看護学部

区分		募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
総合型選抜	一般	7	94	93	16	16
	卒業生子女対象	2	4	3	2	2
学校推薦型選抜	公募制 専願前期日程	18	160	160	23	23
	公募制 併願 A 日程	5	111	111	25	9
	公募制 併願 B 日程	15	279	275	97	39
一般選抜	前期日程(3科目型)	28	230	227	38	15
	前期日程(2科目型)	14	168	164	32	9
	後期日程	5	71	69	10	7
大学入学共通 テスト利用入試	前期日程	3	59	58	10	0
	面接併用型	3	7	7	3	1
合 計		100	1183	1167	256	121

3. リハビリテーション学部

(1) 理学療法学科

区分		募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
総合型選抜	一般	4	49	48	6	6
	卒業生子女対象	2	0	0	0	0
学校推薦型選抜	公募制 専願前期日程	10	71	71	11	11
	公募制 併願 B 日程	4	107	106	13	7
一般選抜	前期日程(3科目型)	10	103	99	16	4
	前期日程(2科目型)	6	95	94	18	15
大学入学共通 テスト利用入試	前期日程	2	30	30	8	1
	面接併用型	2	20	20	4	4
合 計		40	475	468	76	48

(2) 作業療法学科

区分		募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
総合型選抜	一般	4	9	9	6	6
	卒業生子女対象	2	0	0	0	0
学校推薦型選抜	公募制 専願前期日程	10	26	26	13	13

	公募制 併願 B 日程	4	25	25	12	5
一般選抜	前期日程(3科目型)	10	25	25	14	5
	前期日程(2科目型)	6	20	19	11	5
大学入学共通 テスト利用入試	前期日程	2	8	8	5	0
	面接併用型	2	1	1	0	0
合計		40	114	113	61	34

○ 2023 年度 大学院入学試験

区分		募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	入学者数
薬学研究科	I 期	3	1	1	1	0
	II 期	若干名	3	3	3	3
看護学研究科	I 期	8	3	3	3	3
	II 期	若干名	2	2	2	2
医療科学研究科	I 期	8	14	14	10	10

○ 補助金

1. 2022 年度私立大学等改革総合支援事業

私立大学等改革総合支援事業については「タイプ 3: 地域社会への貢献(地域連携型)」が選定された。選定結果は下記のとおりである。

	得点
タイプ 3: 地域社会への貢献(地域連携型)	32 点 / 満点 53 点 ※選定基準 32 点以上

2. 2022 年度科学研究費獲得実績

(単位: 千円)

研究種目名		件数	直接経費	間接経費	交付額
基盤研究(B)		1	1,400	420	1,820
基盤研究(C)		31	31,000	9,300	40,300
若手研究		9	13,100	3,930	17,030
研究活動スタート支援		1	1,100	330	1,430
合計		42	46,600	13,980	60,580
(参考)	2021 年度合計	41	34,400	10,320	44,720
	2020 年度合計	39	38,600	11,580	50,180

○ 2022 年度就職状況

学部		薬学部	看護学部	リハビリテーション学部	
学科		医療薬学科	看護学科	理学療法学科	作業療法学科
卒業生数※1		121	102	45	36
内訳	就職者数	76	99	43	34
	進学者数	1	0	1	0
	その他※2	44	3	1	2

※1 2022 年度秋季卒業生を含む。

※2 国家試験や就職に向けて準備中または不明の者

Ⅲ 財務の概要

○2022 年度決算について

1. 概要

2022 年度は、新病院棟建設や持続的な投資を可能とする財務基盤の強化に向けて、基本金組入前当年度収支差額 1,266 百万円を期初予算に計上した。新型コロナウイルス感染症の教育・研究・診療への影響が継続する中で、業務運営の効率化や経費コントロール強化への一層の取組みを行ったものの、国際情勢の悪化や大幅な円安進行による資材価格や光熱水費の高騰に加えて、コロナ関連の公的支援の減少、多額の建物除却損の計上などもあり、基本金組入前当年度収支差額は前年度比 2,476 百万円減の 4,117 百万円と、黒字を確保したものの大幅な減益決算となった。

2. 事業活動収支計算書(表 1・2 及びグラフ)

<教育活動収支>

① 教育活動収入

教育活動収入は 62,821 百万円となり、前年度比 475 百万円の増収となった。

教育活動収入の大半を占める西宮本院の医療収入は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより病床稼働率が前年度と同水準であったものの、入院単価が上昇したことに加えて、外来患者数の増加、外来単価の上昇が寄与したため、前年度比 1,515 百万円増の 42,009 百万円となった。

また、経常費等補助金は、大学統合の影響により経常費補助金が前年度比 427 百万円増加した一方で、感染症対策に係る補助金が前年度比 847 百万円減少したことから、前年度比 353 百万円減の 5,874 百万円となった。

② 教育活動支出

教育活動支出は、57,860 百万円となり、前年度比 1,755 百万円の増加となった。

人件費は、看護職員処遇改善手当やコロナ感染症対応の諸手当、退職金関連費用などの増加により、前年度比 162 百万円増の 24,086 百万円となった。

一方、教育研究経費は、光熱水費、奨学金などが増加したものの、減価償却費、修繕費等が減少したため、前年度比 64 百万円減の 5,030 百万円となった。

また、医療経費は、高額医薬品の使用増加に伴う薬品費の増加などにより、前年度比 1,777 百万円増の 27,296 百万円となった。この結果、医療収支差額は前年度比 370 百万円の悪化となった。

<教育活動外収支>

教育活動外収支は、有価証券の積み増し・入替えなどにより、受取利息・配当金収入が増加したため、前年度比 61 百万円増の 178 百万円となった。

<特別収支>

開学 50 周年記念事業募金に係る施設設備寄付金やコロナ関連の施設設備補助金が減少したことに加えて、9 号館・旧立体駐車場の解体による処分差額を 1,152 百万円計上したことにより、特別収支は前年度比 1,258 百万円減少し、▲1,022 百万円となった。

3. 資金収支計算書(表 3)

資金収支については、収入(資産売却収入除く)が前年度比 448 百万円減少し、支出(資産運用支出除く)が前年度比 3,131 百万円増加したものの、資産運用支出が前年度比 5,717 百万円減少したため、翌年度繰越支払資金(現金預金)は、2021 年度末 13,834 百万円より 450 百万円増加し、14,284 百万円となった。

4. 貸借対照表(表 4)

2022 年度末の貸借対照表の純資産(資産の部－負債の部)は、資産の部の大幅増加に対し、負債の部は微増にとどまったことから、前年度末比 4,117 百万円増の 85,598 百万円となった。

資産の部は、建物・機器等の減価償却が進んだことに加えて、9 号館・旧立体駐車場の解体に伴う多額の建物除却が発生したものの、余剰資金の効率的な運用により有価証券等が増加した結果、4,288 百万円増加し 114,948 百万円となった。

負債の部は、借入金、前受金が減少した一方で、退職給与引当金、未払金が増加した結果、172 百万円増加し 29,350 百万円となった。

なお、2022 年度末の総保有資金残高は、前年度比 3,534 百万円増の 37,776 百万円となった。

5. 主要財務比率の推移(表 5)

表 5 にて財務比率の推移を表している。比率の意味、主な留意点等を表の次頁に記載している。

6. キャッシュ・フローの推移(表 6)

「教育研究活動」「施設等整備活動」「財務活動」の活動区分ごとのキャッシュ・フローの推移を表している。それぞれのキャッシュ・フロー計算書は、他の会計基準とほぼ同様の区分等の手法を採用して作成している。

以上

表1

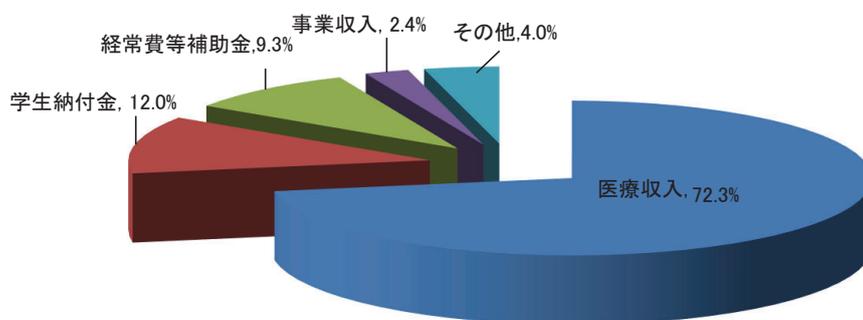
2022年度事業活動収支計算書

(単位:円)

事業活動収入の部			事業活動支出の部		
科目	金額	比率(%)	科目	金額	比率(%)
学生納付金	7,587,882,936	12.0%	人件費	24,085,513,213	40.8%
寄付金	1,442,404,296	2.3%	教育研究経費	5,030,111,460	8.5%
経常費等補助金	5,873,953,875	9.3%	医療経費	27,296,246,408	46.2%
事業収入	1,501,233,887	2.4%	管理経費	1,431,707,670	2.4%
医療収入	45,672,757,546	72.3%	その他	16,291,010	0.0%
その他	742,707,953	1.2%			
教育活動収入計	62,820,940,493		教育活動支出計	57,859,869,761	
受取利息・配当金等	206,016,914	0.3%	借入金等利息	27,877,791	0.0%
教育活動外収入計	206,016,914		教育活動外支出	27,877,791	
資産売却差額	1,849,997	0.0%	資産処分差額等	1,174,919,978	2.1%
その他の特別収入	151,121,760	0.2%			
特別収入計	152,971,757		特別支出計	1,174,919,978	
事業活動収入計	63,179,929,164	100.0%	事業活動支出計	59,062,667,530	100.0%
基本金組入額	△ 1,344,400,000		基本金組入前当年度収支差額	4,117,261,634	
			当年度収支差額	2,772,861,634	

2022年度決算構成比率

【事業活動収入の部】



【事業活動支出の部】

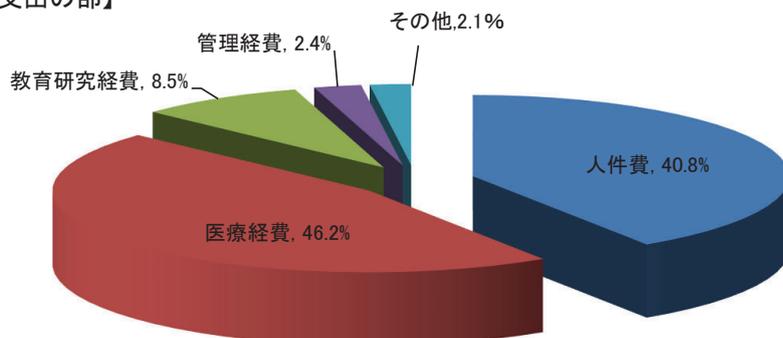


表2

事業活動収支計算書

2022年 4月 1日から
2023年 3月 31日まで

(単位:円)

事業活動収入の部				
科 目	予 算	決 算	差 異	
学 生 納 付 金	7,403,780,000	7,366,958,220	36,821,780	
手 数 料	230,825,000	220,924,716	9,900,284	
寄 付 金	1,755,036,000	1,442,404,296	312,631,704	
経 常 費 等 補 助 金	2,308,242,000	5,873,953,875	△ 3,565,711,875	
国庫補助金	1,990,032,000	2,429,515,800	△ 439,483,800	
地方公共団体補助金	318,210,000	3,444,438,075	△ 3,126,228,075	
付 随 事 業 収 入	46,693,158,000	47,173,991,433	△ 480,833,433	
事 業 収 入	1,496,022,000	1,501,233,887	△ 5,211,887	
医 療 収 入	45,197,136,000	45,672,757,546	△ 475,621,546	
雑 収 入	822,344,000	742,707,953	79,636,047	
教 育 活 動 収 入 計	59,213,385,000	62,820,940,493	△ 3,607,555,493	
受 取 利 息 ・ 配 当 金	161,237,000	206,016,914	△ 44,779,914	
そ の 他 の 教 育 活 動 外 収 入	0	0	0	
教 育 活 動 外 収 入 計	161,237,000	206,016,914	△ 44,779,914	
資 産 売 却 差 額	0	1,849,997	△ 1,849,997	
そ の 他 の 特 別 収 入	98,938,000	151,121,760	△ 52,183,760	
特 別 収 入 計	98,938,000	152,971,757	△ 54,033,757	
事 業 活 動 収 入 の 部 合 計	59,473,560,000	63,179,929,164	△ 3,706,369,164	
事業活動支出の部				
科 目	予 算	決 算	差 異	
人 件 費	23,913,928,000	24,085,513,213	△ 171,585,213	
教職員等人件費	22,986,236,000	23,148,379,480	△ 162,143,480	
退職給与引当金繰入額	816,350,000	861,241,333	△ 44,891,333	
退職金	111,342,000	75,892,400	35,449,600	
教 育 研 究 経 費	5,659,523,383	5,030,111,460	629,411,923	
医 療 経 費	25,744,674,234	27,296,246,408	△ 1,551,572,174	
管 理 経 費	1,543,725,042	1,431,707,670	112,017,372	
徴 収 不 能 額 等	0	16,291,010	△ 16,291,010	
教 育 活 動 支 出 計	56,861,850,659	57,859,869,761	△ 998,019,102	
借 入 金 等 利 息	28,310,000	27,877,791	432,209	
そ の 他 の 教 育 活 動 外 支 出	0	0	0	
教 育 活 動 外 支 出 計	28,310,000	27,877,791	432,209	
資 産 処 分 差 額	1,168,081,000	1,170,289,950	△ 2,208,950	
そ の 他 の 特 別 支 出	0	4,630,028	△ 4,630,028	
特 別 支 出 計	1,168,081,000	1,174,919,978	△ 6,838,978	
[予 備 費]	[50,699,659]		149,300,341	
149,300,341				
事 業 活 動 支 出 の 部 合 計	58,207,542,000	59,062,667,530	△ 855,125,530	
基本金組入前当年度収支差額	1,266,018,000	4,117,261,634	△ 2,851,243,634	
基本金組入額合計	△ 1,071,469,000	△ 1,344,400,000	272,931,000	
当 年 度 収 支 差 額	194,549,000	2,772,861,634	△ 2,578,312,634	
前 年 度 繰 越 収 支 差 額	△ 40,393,267,293	△ 40,393,267,293	0	
基 本 金 取 崩 額	0	2,732,615,583	△ 2,732,615,583	
翌 年 度 繰 越 収 支 差 額	△ 40,198,718,293	△ 34,887,790,076	△ 5,310,928,217	

(参考)

事業活動収入計	59,473,560,000	63,179,929,164	△ 3,706,369,164
事業活動支出計	58,207,542,000	59,062,667,530	△ 855,125,530

表3

資金収支計算書

2022年 4月 1日から
2023年 3月 31日まで

(単位:円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学 生 納 付 金 収 入	7,403,780,000	7,366,958,220	36,821,780
手 数 料 収 入	230,825,000	220,924,716	9,900,284
寄 付 金 収 入	657,131,000	657,193,002	△ 62,002
補 助 金 収 入	2,350,206,000	5,888,345,875	△ 3,538,139,875
国庫補助金収入	2,031,996,000	2,433,811,800	△ 401,815,800
地方公共団体補助金収入	318,210,000	3,454,534,075	△ 3,136,324,075
資 産 売 却 収 入	1,000,000,000	1,005,888,000	△ 5,888,000
付随事業・収益事業収入	46,693,158,000	47,173,991,433	△ 480,833,433
事業収入	1,496,022,000	1,501,233,887	△ 5,211,887
医療収入	45,197,136,000	45,672,757,546	△ 475,621,546
受取利息・配当金収入	161,237,000	206,016,914	△ 44,779,914
雑 収 入	822,344,000	753,066,614	69,277,386
借 入 金 等 収 入	190,846,000	217,835,382	△ 26,989,382
前 受 金 収 入	984,645,000	1,087,399,236	△ 102,754,236
そ の 他 の 収 入	10,966,122,337	11,218,202,857	△ 252,080,520
資金収入調整勘定	△ 11,155,765,858	△ 13,263,031,200	2,107,265,342
前年度繰越支払資金	13,833,832,063	13,833,832,063	
収入の部合計	74,138,360,542	76,366,623,112	△ 2,228,262,570
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費 支 出	23,569,987,000	24,013,471,280	△ 443,484,280
教職員等人件費支出	22,986,236,000	23,148,379,480	△ 162,143,480
退職金支出	583,751,000	865,091,800	△ 281,340,800
教 育 研 究 経 費 支 出	4,194,585,383	3,375,484,591	819,100,792
医 療 経 費 支 出	23,364,990,234	24,943,413,384	△ 1,578,423,150
管 理 経 費 支 出	1,384,322,042	1,273,915,880	110,406,162
借 入 金 等 利 息 支 出	28,310,000	27,877,791	432,209
借 入 金 等 返 済 支 出	861,336,000	913,970,509	△ 52,634,509
施 設 関 係 支 出	1,248,339,000	1,209,455,156	38,883,844
設 備 関 係 支 出	2,240,619,268	1,927,811,370	312,807,898
資 産 運 用 支 出	1,500,000,000	5,083,250,000	△ 3,583,250,000
そ の 他 の 支 出	7,871,439,136	7,701,484,043	169,955,093
[予 備 費]	[94,591,927]		
	105,408,073		105,408,073
資金支出調整勘定	△ 6,857,197,729	△ 8,387,921,362	1,530,723,633
翌年度繰越支払資金	14,626,222,135	14,284,410,470	341,811,665
支出の部合計	74,138,360,542	76,366,623,112	△ 2,228,262,570

表4

貸借対照表

2023年 3月 31日

(単位:円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	80,577,166,380	80,799,150,609	△ 221,984,229
有形固定資産	56,879,291,858	58,779,856,474	△ 1,900,564,616
土地	15,585,027,616	15,585,027,616	0
建物・構築物	31,754,870,383	34,266,789,108	△ 2,511,918,725
教育研究用機器備品	7,961,109,206	7,866,908,754	94,200,452
管理用機器備品	141,116,411	180,893,424	△ 39,777,013
図書	388,947,554	378,011,552	10,936,002
建設仮勘定	1,029,193,756	489,830,000	539,363,756
その他	19,026,932	12,396,020	6,630,912
特定資産	8,273,700,000	6,929,300,000	1,344,400,000
退職給与引当特定資産	1,000,000,000	1,000,000,000	0
教育施設設備等引当特定資産	200,000,000	200,000,000	0
第2号基本金引当特定資産	2,502,700,000	2,002,700,000	500,000,000
第3号基本金引当特定資産	4,571,000,000	3,726,600,000	844,400,000
その他の固定資産	15,424,174,522	15,089,994,135	334,180,387
その他	15,424,174,522	15,089,994,135	334,180,387
流動資産	34,370,427,890	29,859,679,976	4,510,747,914
現金預金	14,284,410,470	13,833,832,063	450,578,407
有価証券	7,400,000,000	5,300,000,000	2,100,000,000
その他	12,686,017,420	10,725,847,913	1,960,169,507
資産の部合計	114,947,594,270	110,658,830,585	4,288,763,685
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	18,345,067,762	19,208,475,217	△ 863,407,455
長期借入金	8,577,617,000	9,239,287,000	△ 661,670,000
退職給与引当金	7,362,754,670	7,290,712,737	72,041,933
長期未払金	189,745,692	333,233,880	△ 143,488,188
長期前受金	2,214,950,400	2,345,241,600	△ 130,291,200
流動負債	11,004,715,877	9,969,806,371	1,034,909,506
短期借入金	879,505,382	913,970,509	△ 34,465,127
1年以内償還予定学校債	10,000,000	10,000,000	0
前受金	1,217,690,436	1,245,492,858	△ 27,802,422
その他	8,897,520,059	7,800,343,004	1,097,177,055
負債の部合計	29,349,783,639	29,178,281,588	171,502,051
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	120,485,600,707	121,873,816,290	△ 1,388,215,583
第1号基本金	109,640,900,707	112,373,516,290	△ 2,732,615,583
第2号基本金	2,502,700,000	2,002,700,000	500,000,000
第3号基本金	4,571,000,000	3,726,600,000	844,400,000
第4号基本金	3,771,000,000	3,771,000,000	0
繰越収支差額	△ 34,887,790,076	△ 40,393,267,293	5,505,477,217
翌年度繰越収支差額	△ 34,887,790,076	△ 40,393,267,293	5,505,477,217
純資産の部合計	85,597,810,631	81,480,548,997	4,117,261,634
負債及び純資産の部合計	114,947,594,270	110,658,830,585	4,288,763,685

注記 減価償却額の累計額
基本金未組入額

62,638,731,071 円
9,989,683,466 円

表5

主要な財務比率の推移

貸借対照表関係財務比率

		2018	2019	2020	2021	2022
① 固定比率	固定資産／純資産(自己資金)	106.7%	106.6%	104.3%	99.2%	94.1%
② 固定長期適合率	固定資産／純資産(自己資金)+固定負債	84.1%	84.6%	82.5%	80.2%	77.5%
③ 流動比率	流動資産／流動負債	226.9%	239.2%	284.9%	299.5%	312.3%
④ 総負債比率	総負債／総資産	30.0%	28.6%	27.7%	26.4%	25.5%
⑤ 退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当特定資産／退職給与引当金	15.2%	14.7%	14.4%	13.7%	13.6%
⑥ 基本金比率	基本金／基本金要組入額	90.0%	92.5%	94.5%	96.4%	97.6%

・ 純資産 = 基本金 + 繰越収支差額 (自己資金 = 基本金 + 消費収支超過額)

事業活動収支計算書関係財務比率

		2018	2019	2020	2021	2022
① 人件費比率	人件費／経常収入	41.1%	39.5%	40.0%	38.3%	38.2%
② 教育研究経費比率	教育研究経費／経常収入	10.6%	8.5%	8.2%	8.2%	8.0%
③ 医療経費比率	医療経費／経常収入	41.6%	43.1%	42.2%	40.8%	43.3%
④ 借入金等利息比率	借入金等利息／経常収入	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%
⑤ 基本金組入後収支比率	事業活動支出／(事業活動収入-基本金組入額)	100.7%	101.9%	98.8%	94.3%	95.5%
⑥ 学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金／経常収入	13.6%	13.0%	12.8%	11.9%	11.7%
⑦ 事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額／事業活動収入	2.0%	5.8%	7.7%	10.5%	6.5%

・ 経常収入 = 教育活動収入 + 教育活動外収入

財務数値(貸借対照表関係)

(単位:百万円)

	2018	2019	2020	2021	2022
1 固定資産	71,440	74,959	78,087	80,799	80,577
2 流動資産	24,213	23,536	25,510	29,860	34,370
3 純資産(自己資金)	66,925	70,329	74,887	81,481	85,598
4 固定負債	18,056	18,326	19,758	19,208	18,345
5 流動負債	10,672	9,840	8,953	9,970	11,005
6 総資産	95,653	98,495	103,598	110,659	114,948
7 総負債	28,728	28,166	28,711	29,178	29,350
8 退職給与引当特定資産	1,015	1,015	1,009	1,000	1,000
9 退職給与引当金	6,684	6,908	7,025	7,291	7,363
10 基本金	110,344	114,790	118,690	121,874	120,486
11 基本金要組入額	122,590	124,073	125,568	126,365	123,401

財務数値(事業活動支計算書関係)

	2018	2019	2020	2021	2022
1 人件費	23,188	22,985	23,459	23,924	24,086
2 教育研究経費	5,951	4,965	4,796	5,094	5,030
3 医療経費	23,462	25,043	24,720	25,519	27,296
4 借入金等利息	44	38	34	31	28
5 事業活動収入(帰属収入)	56,471	58,318	59,205	62,771	63,180
6 経常収入	56,405	58,137	58,609	62,493	63,027
7 事業活動収入-基本金組入額 (消費収入)	54,954	53,872	55,304	59,587	61,836
8 事業活動支出(消費支出)	55,316	54,913	54,647	56,177	59,063
9 学生生徒納付金収入	7,671	7,572	7,527	7,440	7,367

財務比率の説明

貸借対照表関係財務比率

- ① 固定比率 固定資産の純資産に対する割合で、土地、建物、施設等の固定資産にどの程度純資産が投下されているか、資金の調達源泉とその使途とを対比させる関係比率である。低い値がよい。
- ② 固定長期適合率 固定資産の、純資産と固定負債を合計した長期資金に対する割合である。低い値がよい。
- ③ 流動比率 流動負債に対する流動資産の割合。1年以内に償還しなければならない流動負債に対して、現金預金又は1年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する重要な指標の一つ。一般に金融機関等では、200%以上であれば優良とみなしており、100%を切っている場合には、流動負債を固定資産に投下していることが多く、資金繰りに窮しているとみることができる。したがって、高い値がよい。
- ④ 総負債比率 固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合。この比率は、総資産に対する他人資金の比重を評価する極めて重要な関係比率である。低い値がよい。
- ⑤ 退職給与引当特定資産保有率 固定負債の中の退職給与引当金と、その他の固定資産の中の退職給与引当特定資産との関係比率である。高い値がよい。
- ⑥ 基本金比率 基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合。この比率の上限は100%であり、100%に近いほど未組入額が少ないことを示している。100%に近づくほうが望ましい。

事業活動収支計算書関係財務比率

- ① 人件費比率 人件費の経常収入に対する割合を示す重要な比率。この比率が特に高くなると経常支出全体を大きく膨張させ、経常収支の悪化を招きやすい。また、いったん上昇した人件費比率の低下を図ることは容易ではない。
- ② 教育研究経費比率 教育研究経費の経常収入に対する割合。高い値がよいが、経常収支の均衡を崩さない程度であればよい。
- ③ 医療経費比率 医療経費の経常収入に対する割合。高度な医療を提供することで、どうしても医療経費が高くなるが、効率を考えると当然低い値がよい。
- ④ 借入金等利息比率 借入金等利息の経常収入に対する割合。低い値がよい。
- ⑤ 基本金組入後収支比率 事業活動収入から基本金組入額を控除した額に対する事業活動支出が占める割合を示す比率である。一般的には、収支が均衡する100%前後が望ましいと考えられるが、臨時的な固定資産の取得等による基本金組入れが著しく大きい年度において一時的に急上昇することがあり、基本金の組入状況及びその内容を考慮して分析する必要がある。
- ⑥ 学生生徒等納付金比率 学生生徒等納付金の経常収入に占める割合である。安定的に推移することが望ましいが、一概に高い値がよいとか低い値がよいとかはいえない。ただ、高水準で納付金に依存するよりは相対的にこの比率が低いほうがよい場合もある。
- ⑦ 事業活動収支差額比率 事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合であり、この比率がプラスで大きくなるほど自己資金は充実されていることになり、経営に余裕があるものとみなすことができる。この比率がマイナスになる場合は、当年度の事業活動収入で事業活動支出を賅うことができないことを示し、基本金組入前で既に事業活動支出超過の状況にある。マイナスが大きくなるほど経営は窮迫し、いずれ資金繰りにも困難をきたすこととなる。

表6
キャッシュ・フローの推移

(単位:千円)

区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1. 教育研究活動によるキャッシュ・フロー					
学生納付金収入	7,670,667	7,571,947	7,526,898	7,439,940	7,366,958
手数料収入	219,818	226,379	195,836	200,796	220,925
寄付金収入	708,252	736,266	736,119	735,863	657,193
補助金収入	2,688,439	2,402,797	4,030,573	6,325,982	5,888,346
受取利息・資産運用収入	121,261	56,375	117,803	148,672	206,017
事業収入	1,559,895	1,672,835	1,751,276	1,656,141	1,501,234
医療収入	41,578,675	44,150,492	43,211,320	44,265,500	45,672,758
雑収入	850,754	568,459	437,700	799,410	753,067
前受金収入	1,096,286	2,384,715	2,459,381	1,115,202	1,087,399
その他の収入	9,004,160	8,931,514	9,223,904	10,339,431	10,136,746
資金収入調整勘定(注1)	△ 10,107,037	△ 10,332,421	△ 11,472,801	△ 11,390,447	△ 13,263,031
小計 (1)	55,391,170	58,369,358	58,218,009	61,636,490	60,227,612
人件費支出	23,136,894	22,761,901	23,341,624	23,658,192	24,013,471
教育研究経費支出	25,211,560	25,703,922	24,915,732	26,490,608	28,318,898
教育研究経費支出	4,235,448	3,177,773	2,923,676	3,340,334	3,375,485
医療経費支出	20,976,112	22,526,148	21,992,057	23,150,275	24,943,413
管理経費支出	1,402,910	1,258,175	1,420,577	1,399,699	1,273,916
借入金等利息支出	43,784	38,436	34,451	31,188	27,878
その他の支出	8,010,418	8,076,898	6,731,104	6,298,253	7,334,144
資金支出調整勘定(注2)	△ 8,171,503	△ 7,025,409	△ 6,183,581	△ 7,378,948	△ 8,387,921
小計 (2)	49,634,063	50,813,923	50,259,907	50,498,992	52,580,386
教育研究活動による正味キャッシュ・フロー-1 [(1)-(2)]	5,757,107	7,555,435	7,958,102	11,137,498	7,647,226
2. 施設等整備活動によるキャッシュ・フロー					
資産売却収入(動産・不動産売却収入)	0	85,100	0	0	5,888
小計 (3)	0	85,100	0	0	5,888
施設関係支出	621,886	1,936,838	1,602,474	702,639	1,209,455
設備関係支出	1,719,311	2,512,529	2,155,833	1,449,746	1,927,811
小計 (4)	2,341,197	4,449,367	3,758,307	2,152,385	3,137,266
施設等整備活動によるキャッシュ・フロー-2 [(3)-(4)]	△ 2,341,197	△ 4,364,267	△ 3,758,307	△ 2,152,385	△ 3,131,378
事業正味キャッシュ・フロー-(1+2)	3,415,910	3,191,168	4,199,795	8,985,113	4,515,848
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー					
短期借入金純増加額	44,713	58,371	△ 39,834	52,635	△ 34,465
長期借入金収入	0	0	891,000	0	0
長期借入金返済支出	935,570	875,593	1,190,870	670,490	661,670
小計 (5)	△ 890,857	△ 817,222	△ 339,704	△ 617,855	△ 696,135
有価証券売却収入	1,000,000	1,512,345	6,049,318	3,225,228	1,000,000
有価証券購入支出	3,406,297	4,292,560	8,910,890	10,800,000	4,583,250
小計 (6)	△ 2,406,297	△ 2,780,215	△ 2,861,572	△ 7,574,772	△ 3,583,250
その他の収入	57,874	50,595	121,094	85,551	80,456
その他の支出	331,355	329,795	351,460	354,734	367,341
小計 (7)	△ 273,481	△ 279,200	△ 230,366	△ 269,183	△ 286,885
引当資産から支払資金へ	0	0	2,376	9,704	1,001,000
支払資金から引当資産へ	714,810	500,000	505,973	0	500,000
小計 (8)	△ 714,810	△ 500,000	△ 503,597	9,704	501,000
財務活動によるキャッシュ・フロー-3 [(5)+(6)+(7)+(8)]	△ 4,285,445	△ 4,376,637	△ 3,935,239	△ 8,452,106	△ 4,065,270
繰越支払資金の増加額 A (1+2+3)	△ 869,535	△ 1,185,469	264,556	533,007	450,578
前年度繰越支払資金 B	15,091,273	14,221,738	13,036,269	13,300,825	13,833,832
次年度繰越支払資金 (A+B)	14,221,738	13,036,269	13,300,825	13,833,832	14,284,410

注1. 資金収入調整勘定: 前期末前受金、期末未収入金

注2. 資金支出調整勘定: 前期末前払金、期末未払金、期末長期未払金

財産目録

I 資産総額	114,947,594,270 円
内 基本財産	69,381,203,102 円
運用財産	45,566,391,168 円
収益事業用財産	0 円
II 負債総額	29,349,783,639 円
III 正味財産	85,597,810,631 円

区分	金額
資産額	
1 基本財産	69,381,203,102 円
土地	155,426.14 m ² 15,585,027,616 円
建物	217,423.78 m ² 31,240,873,577 円
図書	77,060 冊 388,947,554 円
教具・校具・備品	19,557 点 8,102,225,617 円
その他	14,064,128,738 円
2 運用財産	45,566,391,168 円
現金預金	14,284,410,470 円
その他	31,281,980,698 円
3 収益事業用財産	0 円
資産総額	114,947,594,270 円
負債額	
1 固定負債	18,345,067,762 円
長期借入金	8,577,617,000 円
その他	9,767,450,762 円
2 流動負債	11,004,715,877 円
短期借入金	879,505,382 円
その他	10,125,210,495 円
負債総額	29,349,783,639 円
正味財産(資産総額－負債総額)	85,597,810,631 円

※1 基本財産: 学校法人の設置する私立学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金

※2 運用財産: 学校法人の設置する私立学校の経営に必要な財産

2022年度監事監査報告書

2023年5月25日

学校法人 兵庫医科大学
理 事 会 御中
評 議 員 会 御中

監 事 森田 泰夫 
監 事 正木 義博 
監 事 後藤 研了 

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人兵庫医科大学寄附行為第17条の規定に基づき、学校法人兵庫医科大学監事監査規程(以下「監事監査規程」という)により、学校法人兵庫医科大学の2022年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の学校法人の業務並びに財産の状況について監査を行いました。その方法及び結果について以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法

私たちは監査にあたり、常務会、経営常務会、理事会、評議員会及びその他重要会議に出席するほか、2022年度監事監査計画で取り上げた各キャンパスにおける業務の状況について、各担当理事その他からの状況の聴取または書面提出及び内部監査室から内部監査の報告の聴取並びに私立学校振興助成法第14条3項の規定に基づく会計監査を実施している監査法人から、監査の実施状況及びその結果について報告を受け、さらに、学校法人の業務並びに財産の状況について意見を述べるに当たり、必要と認めた監査手続を監事監査規程に基づき実施しました。

2. 監査の結果

学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、計算書類、すなわち、資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表並びに財産目録等は、会計帳簿の記録と合致し、その収支及び財産の状況を、事業報告書は学校法人の状況を適切に表示しており、業務又は財産に関する不正の行為、または、法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

学校法人 兵庫医科大学

2022年度 事業報告書

発行日 : 2023年6月23日

発行 : 学校法人 兵庫医科大学

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1-1

TEL. 0798-45-6111(代)

編集 : 学校法人兵庫医科大学 総務部総務課
